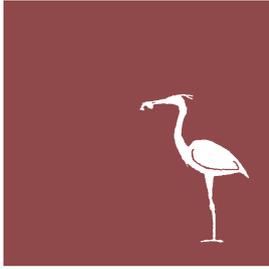


浦幌町立博物館

年報

第12号



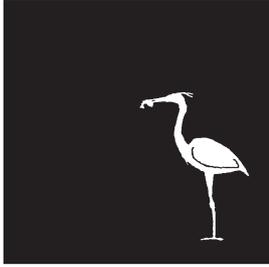
Historical Museum of Urahoro

2011
10

浦幌町立博物館

年報

第12号



Historical Museum of Urahoro

2011
10

序

『浦幌町立博物館年報』第12号をお届けします。本書は、2010（平成22）年度における本館の活動状況を取りまとめたものです。平成22年度は、新たな企画展や本町の自然・文化財を素材としたミニ移動講座等、今までとは視点を変え各種事業を展開して参りました。それぞれの事業内容につきましては、本書をご一読していただければ幸いに存じます。本館におきましては、おおむね充実した1年であったと考えております。

博物館は、地域の歴史や文化、自然など共有の財産の保護、活用を図り、これらに関する調査研究を通じて、生涯学習の場として町民の皆様へ情報を提供して、永い年月にわたって築き上げられた貴重な財産を次の世代に引き継ぎ、伝えていくことが大きな役割と考えております。

しかしながら、地方自治をとりまく環境は一段と厳しく、本町におきましても厳しい財政事情となっております。学芸員の配置や入館者数の伸び悩みなど、解決しなければならない課題はありますが、地域や学校等と連携し、郷土の魅力を再発見していただけるよう町民の皆様により親しまれる博物館活動を展開して参りたいと思います。

最後になりましたが、本館の管理運営に種々ご指導頂きました町民の皆様をはじめ、町立博物館協議会委員、各種講座の講師の皆様、貴重な資料を提供して頂きました皆様、企画展・講座等に足を運んで下さった多くの皆様に深く感謝を申し上げます、序といたします。

2011年10月

浦幌町立博物館長 佐藤芳雄

● 本文目次

序	i
目次	ii
I. 施設の概要	1
II. 常設展示構成	2
III. 資料の受け入れ	13
(1) 受贈資料	13
(2) 採集資料	14
(3) 受贈図書資料	15
IV. 資料の提供	22
V. 博物館の事業	23
VI. レファレンス業務	35
VII. 博物館ボランティア	35
VIII. 博物館日誌(抄)	36
IX. 博物館の利用状況	41
X. 博物館の組織	42
XI. 博物館活動のマスコミ報道	43
XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程	77
XIII. 平成22年度予算	89

● 写真目次

PL. 1 春の草花観察会…ウラホロイチゲ	26
PL. 2 端午の節句写真撮影会	26
PL. 3 新第三世紀の浦幌を探る	26
PL. 4 新第三世紀の浦幌を探る	27
PL. 5 K-T境界層見学会	27
PL. 6 懐かしき昭和30年代	27
PL. 7 故郷へ帰ってきたアロデスミス化石展	28
PL. 8 真夏の残像・戦争の体験を伝える…「語り部の会・戦中の食事体験」	28
PL. 9 開拓の歴史と流しそうめん体験	28
PL.10 新第三世紀の浦幌を探る	29
PL.11 シンカイヒバリガイ化石発見講演会	29
PL.12 アートクレイシルバー教室	29
PL.13 秋の草花観察会	30
PL.14 開拓当時の農機具展示会	30
PL.15 ヒグマの生態を探る	30
PL.16 秋の渡り鳥観察会	31
PL.17 史跡見学会	31
PL.18 移動展「北海道を描いた作家たちの世界」	31
PL.19 ロビーコンサート「陸別リコーダアンサンブル」	32
PL.20 ナイト・ミュージアム	32
PL.21 町広報連載 トリおばさん写真展	32
PL.22 新聞が語る昭和史	33
PL.23 映像で見る昭和50年代の浦幌 懐かしき8ミリ上映会	33
PL.24 化石のレプリカづくり教室	33
PL.25 2010年年賀状展	34
PL.26 ひなまつり	34
PL.27 昭和27年十勝沖地震回顧展	34

● 図版目次

Fig. 1 常設展示ゾーニング図	5
Fig. 2 ヒグマシンボル図	5
Fig. 3 K-T境界	6
Fig. 4 十勝川下流域の地質時代史	6
Fig. 5 北海道の初期の土器文化	7
Fig. 6 シベリアから来た石刃鏃文化	7
Fig. 7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図	8
Fig. 8 続縄文文化と墓	8
Fig. 9 擦文ムラと住居	9
Fig. 10 擦文文化の鉄と農耕	9
Fig. 11 いろいろな土器	10
Fig. 12 いろいろな石器	10
Fig. 13 チャシ	11
Fig. 14 送り場	11
Fig. 15 トカチの成立とトカチ場所	12
Fig. 16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	12

I. 施設の概要

名 称 浦幌町立博物館 (英文表記 Historical Museum of Urahoro)

所在地 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地1

電 話 015-576-2009 (直通) 015-576-2111 (代) 内線542

ファックス 015-576-2452

ホームページアドレス

<http://www.library.ne.jp/raporo21/>

メールアドレス

raporo21@poppy.ocn.ne.jp

建物構造 鉄筋コンクリート造・地上2階建 最高の高さ 10.45m (最高軒高 9.70m)

総工費 983,514千円 (備品購入費を含む)

敷地面積 4,575.907㎡

建築面積 1,804.34㎡

延床面積 2,542.17㎡ (1階:1,518.48㎡ 2階:1,023.69㎡)

博物館単独スペース

常設展示室 378.56㎡

学芸員室 45.50㎡

整理室 78.40㎡

写真室 19.50㎡

収蔵庫 71.50㎡

計 593.46㎡

博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース

視聴覚室 172.90㎡

調整室 19.98㎡

キッズルーム 7.29㎡

1階ホール 182.17㎡

2階ホール 166.50㎡

会議室 63.00㎡

書庫 29.75㎡

機械室 31.08㎡

休憩室 11.55㎡

計 684.22㎡

駐 車 場 正面 普通乗用車用 23台分 (うち身体障害者用 2台分)

裏面 普通乗用車用 19台分

計 42台分

開館時間 午前10時～午後5時

休 館 日 月曜日・祝日・年末年始・その他館長が認めた日

入 館 料 無料

交 通 ・JR根室線浦幌駅下車 徒歩5分

・とち帯広空港から車で約60分

・都市間バス 帯広⇄釧路「浦幌ハローパーク前」下車 徒歩3分

施設設備 エレベーター 1基

車椅子 2台

常設展示室設備

プロローグ音響システム

I. 施設の概要

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム

DVDによる100インチ映像システム

浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花鳥木・産業・イベント・文化・歴史）

5つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）

施設紹介メインマップ

映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）

ポイント情報メニュー（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）

DVD映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）

開拓獅子舞音響システム

II. 常設展示構成

博物館の常設展示は、次の6コーナーで構成されている。

I. 自然からのメッセージ（プロローグ）

II. アオサギの世界

III. 十勝・浦幌の自然誌

IV. 石器と土器の文化

V. アイヌの暮らし

VI. 十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

I	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、ヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②
	4	花	ウラボロイチゲ
II	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オシドリ、オオワシ②
III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(1) 浦幌町の概要紹介〔町の概要、町の花・鳥・木、町の産業、祭り、文化など〕 (2) 5つのエリア〔上浦幌地区・中浦幌地区・市街地・下浦幌地区・東部地区〕 (3) 施設紹介メインマップ〔メインマップ、マップのズームアップ、市街地マップ、施設情報〕

III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(4) 映像情報メニュー〔遺跡探検、浦幌川-河口から源流まで、野鳥観察、浦幌の四季〕 (5) ポイント情報メニュー〔自然観察ポイント、先史遺跡ポイント、チャシ跡観察ポイント〕
	2	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘
	3	十勝川下流域の地質時代史	K-T境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス白歯化石③、シンカイヒバリガイ化石
IV	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面づくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面づくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・暁式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鎌文化	研究のはじめ、北海道の石刃鎌文化遺跡、シベリアの石刃鎌文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鎌、石核、石錐、搔器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	縄文文化と墓	縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ比べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、縄文時代前期の土器、後北C1式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銚先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の轡の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原材産地、使い方
	11	十勝の著名遺跡	八千代A遺跡、下大樹遺跡、十勝ホロカヤントー堅穴群、ユクエピラチャシ跡、広尾仙台藩陣屋跡
	12	土器の個体展示	縄文土器⑥、縄文土器⑥、擦文土器⑥
V	1	アイヌの暮らし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チプネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

II. 常設展示構成

VI	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	7郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度7を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランC局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壺、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗杵、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、杙打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鋳	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓記念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、SPレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

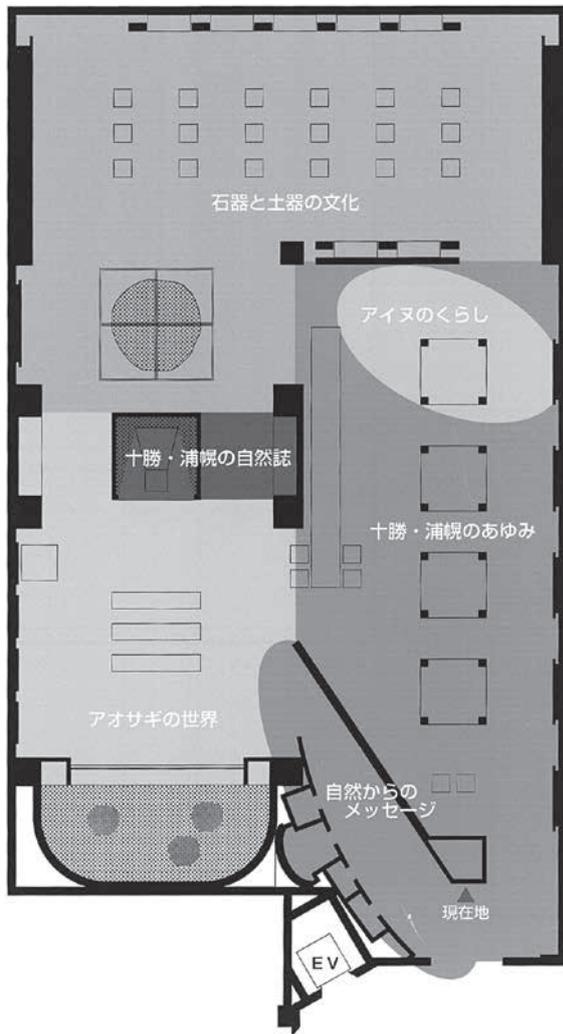


Fig.1 常設展示ゾーニング図



Fig.2 ヒグマ シンボル図

K-T境界

Discoveries of anomalously high Ir concentraions K-T boundary sediments

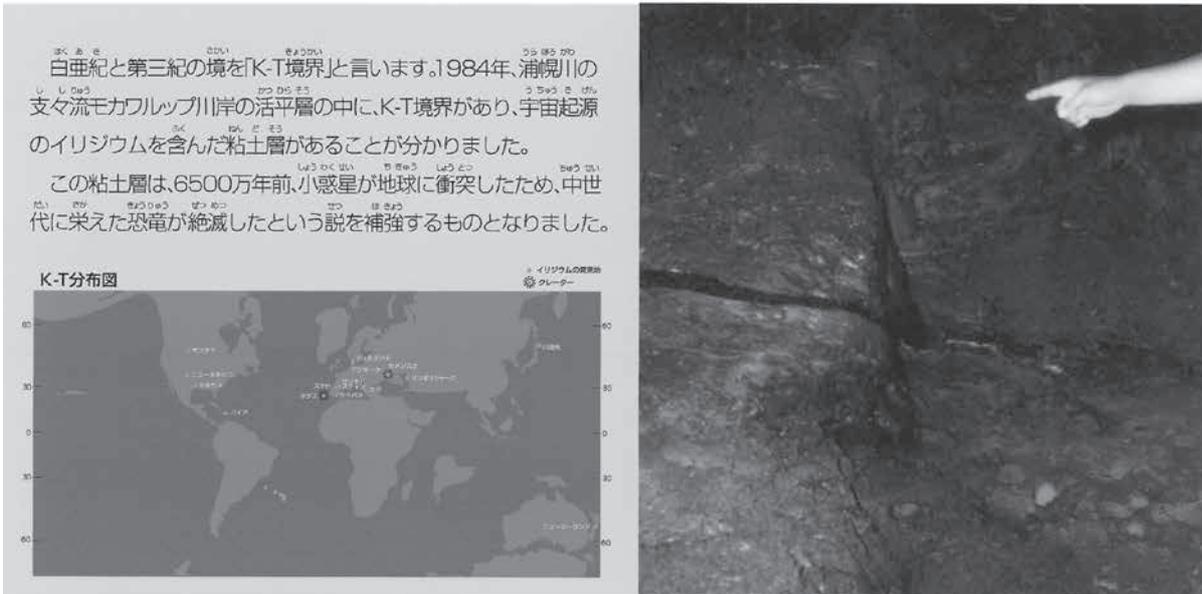


Fig.3 K - T境界

十勝川下流域の地質時代史 Geologic age in the region of the lower course of the Tokachi River



Fig.4 十勝川下流域の地質時代史

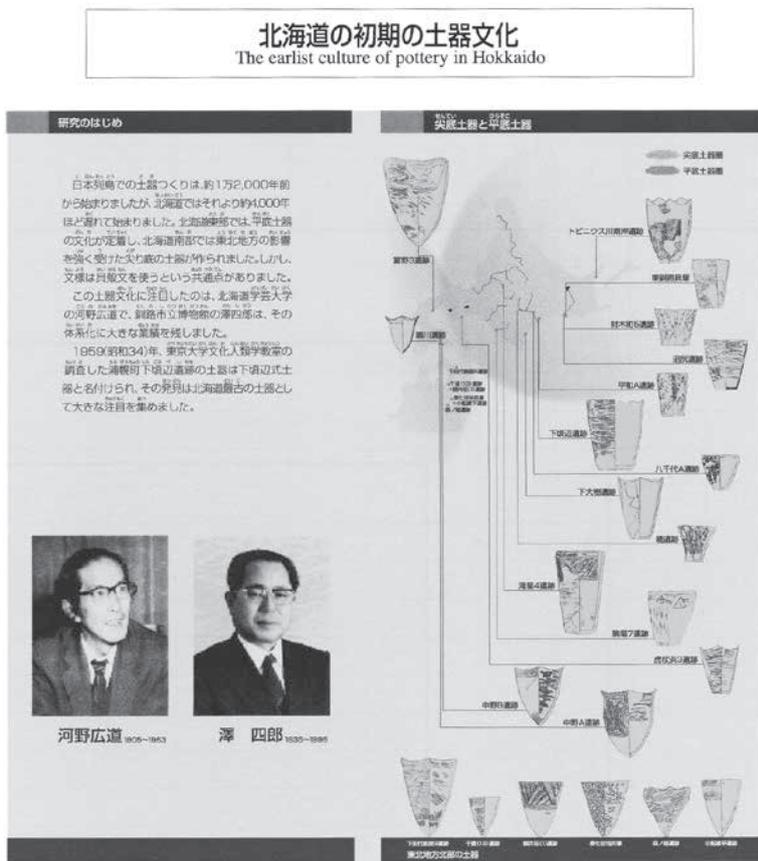


Fig.5 北海道の初期の土器文化



Fig.6 シベリアから来た石刃鎌文化

II. 常設展示構成

十勝太若月遺跡土坑墓配置図
Grave No.36, Tokachibuto-Wakatsuki site Epi-Johmon period.



Fig.7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図

続縄文文化と墓
The epi-johmon culture and Grave

続縄文文化と十勝太若月遺跡

続縄文文化は、縄文文化の印紋を残しながらも、鉄などを取り入れた文化で、本州の弥生文化に相当します。この文化の遺跡からは墓が発見されることが多く、十勝太若月遺跡は大規模な墓遺跡としてよく知られています。

墓は、楕円形に土を掘って墓穴としますが、十勝太若月遺跡には高さ7m以上の掘り下げた墓や、深さ1m50cmの円形の墓も見つかります。これらは、2m以上を掘り下した土鏡の可能性があると考えられています。土鏡の周りには、石鏡、ガラス製の小玉、碧玉製の管玉、コハク製の平玉などの装身具があり、本州にも見られます。

墓の大きさを比べ

- 十勝太若月遺跡 土坑墓24
- 十勝太若月遺跡 土坑墓34
- 十勝太若月遺跡 土坑墓38
- 江別市沢村遺跡 第4号墳墓
- 十勝太若月遺跡 土坑墓35
- 江別市沢村遺跡 第1号墳墓
- 江別市沢村遺跡 第5号墳墓

土坑墓B2の副葬品

十勝太若月遺跡の土坑墓

Fig.8 続縄文文化と墓

擦文ムラと住居 The satsumon village and pit-dwelling



Fig.9 擦文ムラと住居

擦文文化の鉄と農耕 Iron and agriculture in the Satsumon culture



Fig.10 擦文文化の鉄と農耕

II. 常設展示構成



Fig.11 いろいろな土器



Fig.12 いろいろな石器

チャシ
Cast

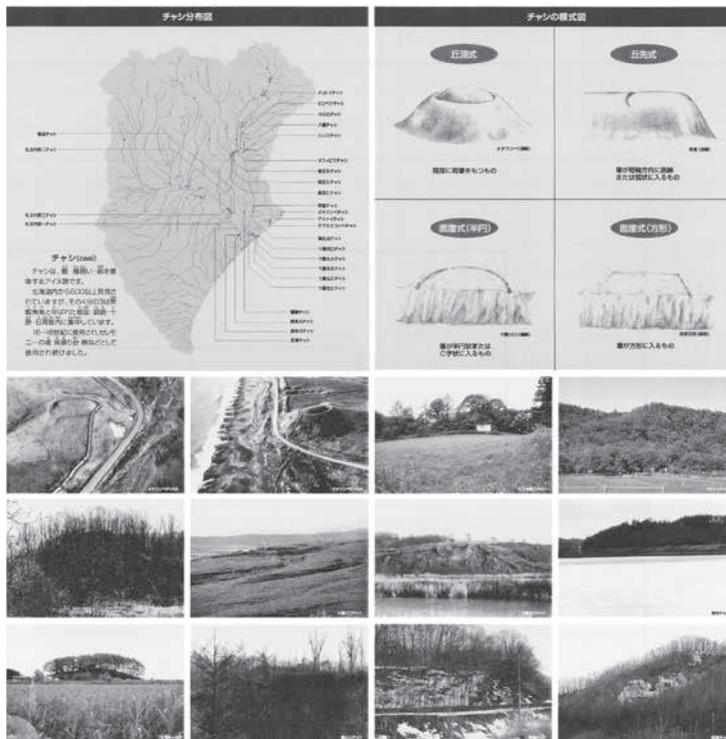


Fig.13 チャシ

送り場
kenmoku: site and that surroundings

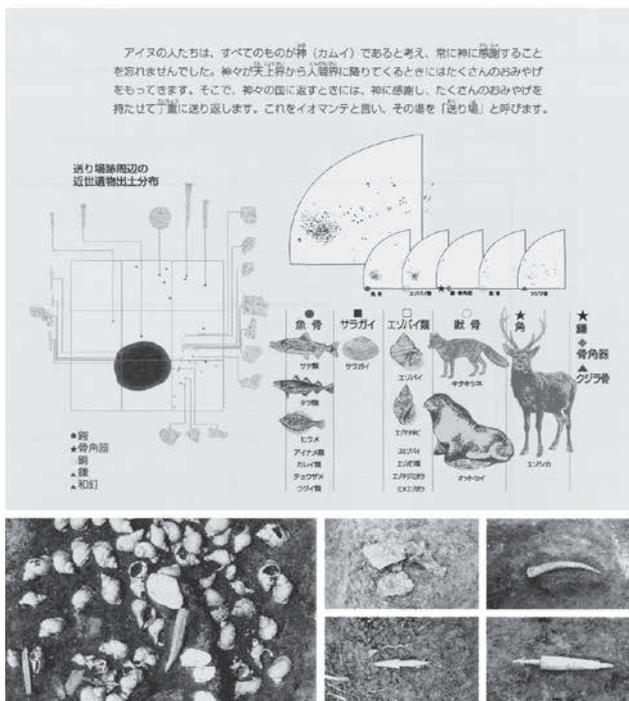


Fig.14 送り場

II. 常設展示構成



Fig.15 トカチの成立とトカチ場所

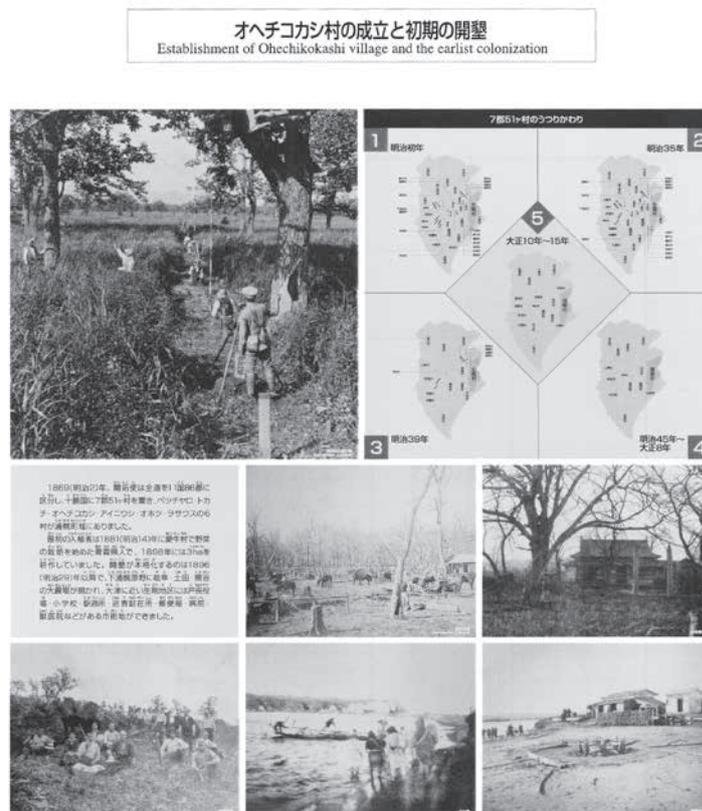


Fig.16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

Ⅲ. 資料の受け入れ

(1) 受贈資料

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
4・30	広 瀬 哲	浦幌町字栄穂	発動機	1
5・27	三 浦 直 春	浦幌町字住吉町	オーディオセット、音盤67、ソノシート	69
5・28	浦幌町まちづくり政策課	浦幌町字桜町	アルバム（写真）2、アルバム（ネガ）16	18
5・28	高 橋 悦 子	浦幌町字東山町	図書3	3
5・28	川 田 秀 幸	浦幌町字北町	コンパクトディスクプレイヤー	1
5・31	浦幌町教育委員会	浦幌町字桜町	社会科資料スライドわたしたちの町うらほろ	1
7・6	荒 川 和 子	浦幌町字南町	8トラック式小型ジュークボックス、8トラック・カート、リッチテープボックス2	3
10・18	須 藤 廣 治	浦幌町字南町	五月人形平飾り（鎧兜）セット	1
10・20	干 場 雅 俊	浦幌町字桜町	図書	1
10・20	佐 藤 喜 和	日 本 大 学	卒業論文	6
10・27	図 書 館	浦幌町字桜町	北海道浦幌高等学校閉校記念式典（袋）	1
11・5	田 中 耕 三	標茶町かや沼	東利正鉋、円印箆面取鉋、印箆面取鉋、友台鉋、太柄決鉋、基市じゃくり鉋、機械決鉋ほか23、貝化石、キセル	32
12・8	櫻 井 明 子	浦幌町寿町	雪下駄	1
12・8	石 塚 啓 作	浦幌町帯富	竈	1
12・29	部 田 岩 雄	浦幌町字栄町	石刃、石斧、石族、エンドスクレイパー、フレイク	93
2・2	東 等 義 光	浦幌町字活平	オオヒカゲなど28種	174
2・3	有限会社レアス	浦幌町字万年	レジスター、楊返機部品、竿秤、銚子、置物、	1
2・4	浦 幌 中	浦幌町字万年	音盤92、ソノシート2	94
2・7	小 川 秀 夫	浦幌町字富川	靖国大全	1
3・2	高 橋 涼 子	浦幌町字活平	軍隊手帳、日本赤十字社社員章、写真9	11
3・2	野 口 常 幸	浦幌町字住吉町	木挽鋸（たてびぎ）	1
3・25	後 藤 秀 彦	浦幌町字吉野	地図、結婚祝賀会しおり1綴、浦幌連青だより1綴	3

III. 資料の受け入れ

(2) 採集資料

月 日	資 料 名	数量	摘 要
4・5	うらほろテレマップ	3	浦幌町商工青年部
10・27	チラシ	1	地域人材育成セミナーのご案内
10・27	チラシ	1	日立建機フェスティバル
10・27	チラシ	1	2010こども祭り
10・27	チラシ	1	第20回ふるさとの夏まつり
10・27	チラシ	1	道の駅うらほろオープン一周年記念感謝イベント
10・27	チラシ	1	第35回うらほろふるさとのみのりまつり
10・27	チラシ	1	秋まつりはローパークで遊ぼう！
10・30	帯広百年記念館移動展リーフレット	1	北海道を描いた作家たちの世界リーフレット
10・30	チラシ	1	インフルエンザ予防接種の実施と費用の助成を行います
10・30	プログラム 美女と野獣	1	チャリティ浦幌バレエ発表会
10・30	チラシ	1	浦幌町で「光インターネット」が始まります！
10・30	チラシ	1	インフルエンザ～病院に電話してから受信を
10・30	平成22年 浦幌町文化祭	1	浦幌町文化祭実行委員会
10・30	浦幌町民社会活動総合補償制度のご案内	1	浦幌町まちづくり政策課
10・30	浦幌町次世代育成支援後期行動計画	1	浦幌町保健福祉課
11・2	浦幌町教育の日 ポスター	1	浦幌町教育委員会
11・2	地域ぐるみで「生きる力」を育もう	1	浦幌町教育委員会
11・2	ポスター	1	アップビートとかち音楽祭
11・2	厚内・上厚内・新吉野・浦幌駅時刻表	1	J R 浦幌駅「平成21年改正」
11・2	帯広駅列車発着時刻表	1	J R 北海道旅客鉄道株式会社
11・2	厚内・上厚内・新吉野・浦幌駅時刻表	1	J R 浦幌駅「平成22年改正」
12・20	第12回うらほろ物産フェア	1	浦幌町観光協会
12・22	町おこし発表会	1	浦幌中学校3年総合学習「郷土振興」
12・22	うらほろ食育セミナー part 3	1	うらほろ子ども農山漁村交流プロジェクト
2・2	カレンダー	1	東十勝ロングトレイル
2・2	カレンダー	1	浦幌町・浦幌町商工会
3・18	チラシ	1	閉店セール ヤングシューズ
3・18	祝 留真温泉オープニングセレモニー	1	浦幌町
3・18	うらほろ留真温泉パンフレット	1	浦幌町
3・28	平成22年度 自治功労者・教育功績者等表彰式	1	浦幌町・浦幌教育委員会
3・30	広報 Urahoro No.696～707	12	浦幌町まちづくり政策課広報広聴係
3・30	うらほろ議会だより	4	浦幌町議会広報編集特別委員会

(3) 受贈図書資料

【北海道】

北海道開拓記念館

北海道開拓記念館調査報告 第49号
 北海道開拓記念館研究紀要 第38号
 北海道開拓記念館だより 207～210号
 2009 要覧
 特別展 どんぐりコロコロ-どんぐりからつな
 がる多くのいのち-

北海道立アイヌ民族文化研究センター

北海道立アイヌ民族文化研究センター年報
 2009
 研究紀要 第16号
 「東北日報」「釧路新聞」掲載アイヌ関係記事
 (1901～1942年):目録と紹介
 アイヌ民族文化研究センターだより No.32・33

北海道立文学館報

北海道立文学館報 第81～84号

北海道立文書館

赤れんが No.46

北海道大学総合博物館

秋山茂雄「極東亜産スゲ属植物」図版標本目録
 北海道大学総合博物館ニュース 第21・22号
 マキシモヴィチ・長之助・宮部
 アラスカの恐竜-アジアをめざした生命-

(財)北海道埋蔵文化財センター

(財)北海道埋蔵文化財センター 調査年報 22
 (財)北海道埋蔵文化財センター 調査年報 23
 (財)北海道埋蔵文化財センター年報 11
 恵庭市 西島松2遺跡
 森町 石倉1遺跡 (2)
 北斗市 矢不來9遺跡 (2) 矢不來11遺跡 (3)
 幌延町・豊富町 音類堅穴群II
 テエタ 第24号

北海道博物館協会

第49回北海道博物館大会資料
 道博協ニュース 第98～100号

北海道教育大学

北海道教育大学紀要 人文学・社会科学編
 第60巻 第2号

北海道教育大学紀要 人文学・社会科学編
 第61巻 第1号

北海道教育大学紀要 自然科学編
 第61巻 第1号

北海道大学

北大構内の遺跡XVII
 噴火湾北岸の人類遺跡と縄文エコミュージアム
 埋蔵文化財調査室ニュースレター 第6～8号
 北海道における棟札に関する研究
 アイヌ文化に関する研究の推進・連携等体制
 構築の検討事業

北海学園大学

学園論集 第143～146号
 開発論集 第86・87号

札幌大学公開講座運営委員会

文化って何?・文化のチカラを考察する
 札幌大学公開講座講師ガイドブック 2010

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構

平成22年度アイヌ語ラジオ講座テキストVol.2～4
 第14回 アイヌ語弁論大会報告書イタカンロー
 アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告 第10号
 (上巻研究篇)
 アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告 第10号
 (下巻資料編)

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構助成事業案内
 平成22年度版「伝統工芸展示公開・複数助成事業案内」
 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構助成事業案内
 平成22年度版「国内・国際文化交流助成事業編」
 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構助成事業案内
 平成22年度版「研究・出版助成事業編」
 アイヌの人たちとともに-その歴史と文化-
 平成22年度 財団のあらし

パイェアンロ

Paye = an ro

アイヌ-美を求める心

チュウ チェプ

北海道報徳社

北海道報徳社情報 第350～353号

札幌市

III. 資料の受け入れ

平成21年度 調査報告書 市内遺跡発掘調査報告書2
市内遺跡確認調査等報告書
K518遺跡第3次調査
T539遺跡
S329遺跡

札幌市埋蔵文化財センター
N533遺跡
T71遺跡 第3次調査

(財)北海道科学文化協会
郷土を築いた屯田兵 三沢毅の生涯

北海道大学 塚本久美子
いいことおしえてあげる

北村 剛
わかりやすい原始のはなし

利尻町立博物館
利尻研究 第30号

北海道立旭川美術館
氷華 No.52

星の降る里百年記念館
平成21年度版 年報

後藤純男美術館
後藤純男展図録 (第2版)

三笠市立博物館
三笠市立博物館年報 第28号
三笠市立博物館紀要 自然科学第14号

由仁町教育委員会
東三川遺跡

江別市郷土資料館
江別市郷土資料館年報 Vol.9
江別の遺跡をめぐる
高砂遺跡 (21)

層雲峡ビジターセンター
層雲峡ビジターセンターだより No.42・43

北海道立北方民族博物館
北海道立北方民族博物館研究紀要 第19号
北海道立北方民族博物館年報 平成21年度
北方民族博物館だより No.76～78
現代社会と先住民文化-観光、芸術から考える-①
トナカイのパーカー アザラシのブーツ

斜里町教育委員会

朱円48遺跡・ウナベツ8遺跡
オクシベツ7遺跡
朱円42遺跡・朱円2遺跡栗澤台地遺跡
チャシコツ岬下B遺跡
カモイベツ遺跡
オライネコタン遺跡3・4
アッカシベツ22遺跡
オクシベツ4遺跡
アキシベツ11遺跡
朱円2遺跡

網走市教育委員会
史跡最寄貝塚整備事業報告書

美幌農業館・博物館
美幌博物館研究報告 第17号
2009年度 博物館自然講座
2009年度 自然を語ろう!びほろふるさと体験隊
美幌川に暮らす魚たち
ザリガニフォーラム 「特定外来生物ウチダザリガニの現状と将来」
グリーンレター 第158～168号

北見市教育委員会
蘭国橋遺跡・川東16遺跡

戸部千春
アイヌ民族のマキリ鞆 第1集
マキリ研究会通信 2010

標津町教育委員会
標津川河岸遺跡
平成21年度
史跡 標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡

別海町郷土資料館
別海町郷土資料館だより No.129～140

根室市歴史と自然の資料館
根室市歴史と自然の資料館紀要 第22号
くるまいし No.25

弟子屈町教育委員会
摩周湖の昆虫

厚岸町海事記念館
厚岸町海事記念館通信 No.24・25

釧路市博物館
釧路市博物館紀要 第33輯
ヤマの話を聞く会 記録集

釧路市博物館報 No.400～405
釧路市埋蔵文化財センター
 釧路市幣舞2遺跡調査報告書Ⅱ
 釧路市東釧路貝塚調査報告書Ⅱ
 釧路市音別町地区埋蔵文化財分布調査報告書Ⅰ
 釧路市音別町地区埋蔵文化財分布調査報告書Ⅱ
 釧路市阿寒町地区埋蔵文化財分布調査報告書Ⅰ
特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ
 Cranes and People
えりも町郷土資料館
 平成21年度 えりも町郷土資料館ほろいずみ・
 えりも町漁業振興センター館水産の館活動報告書
 えりも研究 第7号
平取町立二風谷アイヌ文化博物館
 2008年度 平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報
平取町教育委員会
 平取町 パンケヌツチミフ遺跡
沙流川歴史館
 沙流川歴史館だより No.36～38
日高町教育委員会
 ポロペチリ遺跡
むかわ町教育委員会
 むかわ町宮戸4遺跡 (4)
むかわ町立穂別博物館
 むかわ町立穂別博物館報 第26号
 むかわ町立穂別博物館研究報告 No.25
いしかり砂丘の風資料館
 エスチュアリ No.42
千歳市教育委員会
 末広2遺跡
 美々貝塚北遺跡における考古学的調査
恵庭市郷土資料館
 恵庭市郷土資料館年報 第16号
 ユカンボンE2遺跡Ⅱ
苫小牧市博物館
 苫小牧市博物館報 第7号
 苫小牧市博物館だより No.59
仙台藩白老元陣屋資料館
 仙台藩白老元陣屋資料館報 第13・14合併号
 仙台藩白老元陣屋資料館報 第15・16合併号

有島記念館
 有島記念館 第9号
小樽市総合博物館
 小樽市総合博物館紀要 第24号
岩内町教育委員会
 東山1遺跡Ⅱ
洞爺湖教育委員会
 高砂遺跡
 国指定史跡 入江・高砂貝塚2
今金町教育委員会
 宮島1砂金採掘跡
伊達市噴火湾文化研究所
 有珠4遺跡発掘調査報告書
八雲町教育委員会
 浜松2遺跡Ⅳ
森町教育委員会
 鷲ノ木遺跡Ⅴ
厚沢部町
 史跡松前氏城跡 福山城跡 館城跡 館城跡Ⅵ
上ノ国町教育委員会
 史跡 上乃国館跡Ⅲ
七飯町歴史館
 七飯町歴史館年報 第2号
市立函館博物館
 市立函館博物館研究紀要 第21号
 SARANIP No.49・50
函館教育委員会
 函館市 八木A遺跡
 函館市 豊崎B・P遺跡
 垣ノ島遺跡
 豊原2遺跡
北海道立函館美術館
 北海道立函館美術館年報 2007-2008
 開港150年記念 箱館→函館ビジュアル時間旅行
松前町教育委員会
 史跡 松前氏城跡 福山城跡Ⅱ
 史跡 松前氏城跡 福山城跡Ⅲ
 史跡 松前氏城跡 福山城跡Ⅴ
 史跡 松前氏城跡 福山城跡Ⅵ
 史跡 松前氏城跡 福山城跡保存整備事業報告書

III. 資料の受け入れ

福山城下町遺跡Ⅳ
神明石切り場跡Ⅱ
神明石切り場跡Ⅲ 大館遺跡 バッコ沢牢屋跡遺跡
星の降る百年記念館
平成20年度版 年報
陸別町教育委員会
天文台だより Vol.45～51
りくべつ宇宙地球科学館
りくべつ宇宙地球科学館年報 第5号
足寄動物化石博物館
博物館だより No.112～116
上士幌町ひがし大雪博物館
上士幌町ひがし大雪博物館研究報告 第32号
神田日勝記念館
画室 Vol.37
帯広百年記念館
帯広百年記念館紀要 第28号
帯広・中村遺跡
帯広大谷短期大学
帯広大谷短期大学紀要 第47号
Search! '2010,
北海道馬頭観音研究会
十勝の馬頭さん
西江建設株式会社
十勝川下流の生き物たち
豊頃町教育委員会
尊親さんのむらづくり
トカチヲホツナイ古地図古記録集成
大津・十勝川学会
大津十勝川研究 第8号
君 尹彦氏文書調査団
雪解け 第2号
片山 隆
十勝の「二宮金次郎像」を訪ねて…
高橋悦子
鈴木家百年史 鈴木家の人人はばたけ未来へ向って
人間の土地 第1部Ⅰ～Ⅳ
人間の土地 第2部Ⅰ～Ⅳ
北の青嵐選集
ことぶき大学 合同句集・ことぶき

佐藤芳雄

とち彩失事季2 雨のち晴れ
北海道浦幌高等学校59年の軌跡
北海道浦幌高等学校新聞記事集(平成8年度～平成21年度)

浦幌ヒグマ調査会

浦幌クマ便りvol.11、no.2 vol.12、no.1

上浦幌中学校創立百年兼閉校記念事業協賛会

上浦幌中学校創立百年兼閉校記念誌 かみうら

浦幌町教育委員会

小学校社会科郷土読本 うらほろ 平成19年版

【青 森 県】

青森県立郷土館

青森県立郷土館報 平成22年度版
青森県立郷土館研究紀要 第34号

青森県教育庁文化保護課

縄文 英語版

青森県教育委員会

特別史跡三内丸山遺跡年報 13
三内丸山遺跡 36
三内丸山通信 第50号

【岩 手 県】

一関市博物館

一関市博物館研究報告 第13号
光芒の再生-赤羽刀のきらめき-

岩手県立博物館

平成21年度 岩手県立博物館年報
岩手県立博物館研究報告 第27号
岩手県立博物館だより No.126～128

北上市立博物館

北上市立博物館だより No.31

宮沢賢治記念館

平成21年度 宮沢賢治記念館年報
宮沢賢治記念館通信 第103・104号

遠野市立博物館

遠野市立博物館リニューアル特別展
「遠野物語の100年」

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館年報 1号

【宮 城 県】

仙台市富沢遺跡保存館

地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告 2009
特別企画展 洞穴遺跡の考古学

東北電力株式会社

白い国の詩 第611号

【山形県】

山形県立うきたむ風土記の丘考古学資料館

2009 年報

平安初頭の南出羽考古学-官衙とその周辺-
うきたむ 第34・35号

【新潟県】

十日町市教育委員会

壊されるモノ-土偶・石俵・石皿からみた縄文の祭祀-

新潟県立歴史博物館

新潟県立歴史博物館研究紀要 第11号

山崎光子民俗服飾コレクション

【埼玉県】

さいたま市立浦和博物館

さいたま市博物館研究紀要 第9集

【茨城県】

上高津貝塚ふるさと歴史の広場

上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報 第15号

神の寺・山の寺・里の寺

【千葉県】

国立歴史民俗博物館

アメリカに渡った日本人と戦争の時代

アジアの境界を越えて

武士とはなにか

千葉県立中央博物館

千葉県立中央博物館研究報告 人文科学
第11巻 第2号

野田市郷土博物館

野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要第2号

千葉大学文学部考古学研究室

伊茶仁ふ化場第1遺跡 第6次発掘調査概報

伊茶仁ふ化場第1遺跡 第7次発掘調査概報

城西国際大学物質文化研究センター

物質文化研究 第7号

山口 廣

三菱一号館 誕生と復元の記録

【東京都】

東京家政学院生活文化博物館

子どもの誕生と日々の暮らし-江戸時代から現代へ-

東京大学総合博物館

東京大学総合研究博物館ニュース 第39~40号

江戸東京博物館

江戸東京博物館NEWS vol.69~72

豊島区立郷土資料館

豊島の集団学童疎開資料集(10)日記・書簡編IX

生活と文化 研究紀要 第19号

豊島区地域地図 第7集 <改訂版>

豊島区郡の村絵図

かたりべ No.94・100

明治大学博物館

明治大学博物館年報 2008年度

明治大学博物館年報 2009年度

明治大学博物館研究報告 第15号

駿台史学会

駿台史学 第140号

立正大学史学会

立正史學 第107・108号

法政大学史学会

法政史学 第73・74号

法政大学国際日本学研究所

国際日本学 第8号

人体と身体性

異文化研究としての「日本学」

HOSEI I.J.S. No.13

青山学院大学文学科研究室

青山史 第28号

國學院大學文学部考古学研究室

新潟県中魚沼郡津南町 本ノ木遺跡

國學院大學研究開発推進機構

伝統文化のモノと心 No.4

お茶の水大学学芸委員課程

博物館実習報告 第26号

昭和女子大学国際文化研究所

ベトナム北部の一括出土銭の調査研究

昭和女子大学国際文化研究所紀要Vol.13

出光美術館

出光美術館報 第150~152号

世田谷区立郷土資料館

鳥山寺町

資料館だより No.53

深川江戸資料館

江東幕末発見伝!

文化庁文化財部記念物課

発掘調査のてびき-集落遺跡発掘編-
-整理・報告書編-

(株)文化環境研究所

Cutivate No.36・37

文環研レポート第30・31号

社団法人 日本ユネスコ協会連盟

世界遺産年報 2011

地方史研究協議会

地方史研究 第345号

同成社

世界遺産 縄文遺跡

公益財団法人 伝統活性化国民協会

伝統文化 No.36

公益財団法人 新聞通信調査会

新聞通信選書6 さらばフリート街英新興亡の400年
新聞の未来を展望する

-電子ペーパーは救世主となれるか-

日本発 国際ニュースに関する研究

IT時代の報道著作権

在日外国特派員

岐路に立つ通信社-その過去・現在・未来

メディア展望 第581~583号

【神 奈 川 県】

横浜市歴史博物館

横浜市歴史博物館資料目録 第18集

横浜市歴史博物館調査研究報告 第5号

横浜市歴史博物館紀要 第14号

企画展図録「絵地図・浮世絵にみる開港場

横浜の風景

企画展図録「瓦版・絵巻にみペリー-来航と横浜開港」

特別展図録「陸の道と海の道の交差点

-江戸時代の神奈川-」1

特別展図録「陸の道と海の道の交差点

-江戸時代の神奈川-」2

特別展図録「古代の役所と地域社会

-誕生!古代よこはまの郡家」

企画展「考古学ってなに?」

平塚市博物館

平塚市博物館年報 No.33

自然と文化 No.33

神奈川大学日本常民研究所

2010年度 神奈川大学日本常民研究所

民具マンスリー 第42巻11~12号

民具マンスリー 第43巻1~12号

恩名中原遺跡第4地点発掘調査報告書

中原桜野遺跡発掘調査報告書

稲城市No.139遺跡発掘調査報告書

【長 野 県】

飯田市美術博物館

飯田市美術博物館研究紀要 第20号

信州飯田領主堀侯-日本を動かした郷土の外様大名

伊那谷自然史論集 vol.11

獅子舞-ユーラシアから伊那谷へ-

【富 山 県】

氷見市立博物館

氷見市立博物館年報 第28号

向島文庫(絵葉書)目録

特別展 山城探訪-よみがえる中世-

特別展 氷見の手仕事

富山市日本海文化財研究所

富山市日本海文化財研究所紀要 第23号

富山市日本海文化財研究所紀要 第24号

富山市日本海文化財研究所報 第44~46号

【愛 知 県】

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要 第28号

南山大学人類学博物館紀要 第29号

【岐 阜 県】

飛騨市教育委員会

江馬氏城館跡VI

史跡江馬氏城館跡下館跡地区整備工事報告書

【滋 賀 県】

滋賀県立琵琶湖博物館

琵琶湖博物館資料目録第17号 民俗資料3

琵琶湖博物館資料目録第18号 民俗資料4
琵琶湖博物館研究調査報告 第25号

【京 都 府】

同志社大学歴史資料館

南山城の古代寺院

古代学協会

土車 第119・120号

【奈 良 県】

(財)水平社博物館

(財)水平社博物館研究紀要 第12号

ルシファー 第13号

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第23号

(独) 奈良文化財研究所

奈良文化財研究所概要 2010

奈良文化財研究所紀要 2010

平城京奈良の都のまつりごととくらし

埋蔵文化財ニュース 138~141

奈良大学文学部文化財学科

文化財学報 第28集

【大 阪 府】

大坂大谷大学博物館

西都原Ⅱ・169号墳・170号墳発掘調査報告書

(遺物編)

博物館だより No.107~109

大阪大谷大学

大坂大谷大学文化財研究 第10号

志学台考古 第10号

関西大学博物館

関西大学博物館紀要 第16号

はくぶつかんの海外資料~モノでめぐる世界旅行~

阡陵 No.60~62

【兵 庫 県】

姫路市立城郭研究室

姫路市立城郭研究室年報 Vol.20

(財)竹中大工道具館

竹中大工道具館だより No.23・24

【広 島 県】

熊谷製作所

抜萃のつゞり その七十

【山 口 県】

下関市立考古博物館

下関市立考古博物館研究紀要 第14号

下関市立考古博物館年報 第15号

「もったいない」の考古学

あやらぎ No.21

【福 岡 県】

福岡市埋蔵文化財センター

福岡市埋蔵文化財センター年報 第28号

【沖 縄 県】

南条市教育委員会

南城市史 総合版(通史)

IV. 資料の提供

貸出先	浦幌神社
資料名	煎餅焼器 2
目的	和ごころ体験塾事業に使用
期間	平成22年7月21日～平成22年7月30日

貸出先	幕別町白人小学校池田圭子
資料名	浦幌炭碓写真 2
目的	十勝毎日新聞社 小学生のページに使用
期間	平成22年8月17日

貸出先	公益財団法人 新聞通信調査会
資料名	同盟写真ニュース 3枚
目的	通信社ライブラリーに展示
期間	平成22年9月8日

貸出先	浦幌町立浦幌小学校
資料名	明治36年浦幌駅開業記念、十勝太トーチカ、出兵兵士を見送る、買出し風景、十勝沖地震、チリ津波、浦幌炭碓、K-T境界層、ウラホロシンカイヒバリガイ、オタフンベチャシ跡ほか
目的	社会科郷土読本うらほろ 3・4年（平成23年版）に掲載
期間	平成22年10月7日～平成23年3月31日

貸出先	東十勝ロングトレイル活動協議会
資料名	浦幌炭碓写真 1枚
目的	資料作成
期間	平成22年10月22日～平成22年11月5日

貸出先	浦幌町農業協同組合
資料名	昭和17年万年地区長沼の切落し完成、下浦幌原野の開墾の様子、生剛外二村戸長役場、河合牧場、黒岩農場
目的	十勝百年農場受賞祝賀会でのスライド上映会に使用
期間	平成22年11月9日～平成22年11月18日

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	場所	期日	備考	
収集	旧資料の登録化	郷土博物館からの資料引継ぎ	博物館	通年		
	新資料の登録化	新資料・寄贈資料の整理登録化	博物館	通年	寄贈 517点 収集 49点	
	図書資料の収集	図書資料の収集	博物館	通年	受贈 309点	
	新聞資料の収集	新聞資料の整理	博物館	通年	カード化	
保存	昆虫標本の作成・保存	チョウの採集・標本化	博物館	夏季	採集 171頭	
展示	巡回展	帯広百年記念館移動展「音の博物館：なつかしのレコード展」	寿大学交流会	10/15	記念館ボランティア 中央・厚内寿大学生80人	
		帯広百年記念館運営連絡協議会移動展「北海道を描いた作家たちの世界」	博物館	10/20～10/31	126人 記載のみ	
	小企画展	収蔵資料展「端午の節句展」	博物館	4/16～5/5	130人 記載のみ	
		収蔵資料展「懐かしき昭和30年代」	博物館	6/1～6/13	286人 記載のみ	
		故郷へ帰ってきたアロデスミス化石展	博物館	7/20～8/15	185人 記載のみ	
		浦幌の化石展	博物館	7/20～8/5	38人 記載のみ	
		国内最古のシンカイヒバリガイ化石展				
		真夏の残像・・・戦争体験を伝える・・・語り部の会・戦中の食事体験	博物館	8/6～8/22	171人 記載のみ 語り部 坂井 英35人	
		収蔵資料展「明治・大正・昭和の測量図面展」	博物館	9/1～9/19	213人 記載のみ	
		収蔵資料展「開拓当時の農機具展示会」	博物館	9/21～10/3	69人 記載のみ	
		開拓当時の食事体験	博物館	10/2	参加者 18人	
		秋の絵手紙展	博物館	10/5～10/17	69人 記載のみ	
		町広報連載 トリおばさん写真展	博物館	11/2～11/22	233人 記載のみ	
		収蔵展「新聞が語る昭和史」	博物館	12/4～12/26	52人 記載のみ	
		2010年 年賀状展	博物館	1/16～1/26	86人 記載のみ	
収蔵資料展（雛人形展）	博物館	2/15～3/3	撮影会 33人			
収蔵資料展「昭和27年十勝沖地震回顧展」	博物館	3/4～3/27	撮影会 127人			
調査	古文書解読	教育雑件（大正15年・昭和元年）	博物館	通年	博物館ボランティア	
	浦幌野生動物調査			通年		
教育普及	博物館講座の開設	三世代交流博物館講座「開拓の歴史と流しそうめん体験」	博物館	8/22	講師：高橋悦子 70人参加	
		シンカイヒバリガイ化石発見講演会	博物館	9/7	講師：ロバート・ジェンキンス40人参加	
		アートクレイシルバー教室	博物館	9/15	講師：番匠康子 7人参加	
		ロビーコンサート「陸別リコーダアンサンブル」	博物館	11/6	陸別小・中 40人参加	
		ナイト・ミュージアム	博物館	11/27	講師：館長24人参加	
		ロビーコンサート「ゴスペルライブ」	博物館	12/18	パトリス 28人参加	

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	場所	期日	備考
教育普及		映像で見る昭和50年代の浦幌懐かしきかしき8ミリ上映会	中央公民館	12/14・21	講師：山村照雄 37人参加
		化石のレプリカづくり教室	博物館	1/11	講師：澤村 寛 22人参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	1/15	15人参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	2/12	12人参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	3/26	10人参加
	移動博物館教室の開設	博物館ミニ移動講座（草花編） 「春の草花観察会・ウラボロイチゲ」	万年養老	5/1	講師：坂下禮子 7人参加
		博物館ミニ移動講座（野鳥編） 「青い鳥を探そう」	森林公園	5/5	講師：春日基江 13人参加
		博物館ミニ移動講座「物理・天文学見地からK-T境界層を探る」	川流布上厚内	5/15	講師：北村 剛 13人参加
		博物館ミニ移動講座（歴史編） 「史跡見学会」	十勝太厚内	6/12	講師：館長 12人参加
		博物館ミニ移動講座（草花編2） 「初夏の草花観察会」	豊北海岸	6/27	講師：坂下禮子 10人参加
		博物館ミニ移動講座（歴史編2） 「史跡見学会」	直別	7/17	講師：館長 4人参加
		博物館ミニ移動講座（地学編） 「新第三世紀の浦幌を探る」	厚内上厚内	7/24	講師：和歌山満 10人参加
		博物館ミニ移動講座（地学編2） 「K-T境界層見学会」	川流布	8/8	講師：澤村 寛 33人参加
		博物館ミニ移動講座（地学編3） 「新第三世紀の浦幌を探る」	炭山	8/28	講師：和歌山満 13人参加
		博物館ミニ移動講座（歴史編3） 「史跡見学会」	十勝太 オクパヤン	9/11	講師：館長 4人参加
		博物館ミニ移動講座（草花編2） 「秋の草花観察会」	豊北海岸	9/18	講師：坂下禮子 6人参加
		博物館ミニ移動講座（野生動物編） 「ヒグマの生態を探る」	炭山	9/23	講師：中村秀次ほか 2名 10人参加
		博物館共催 東十勝ロングトレイル・モニターツアー「K-T境界層・炭山・留真自然体験」	川流布炭山留真	10/22～23	講師：館長 69人参加
		博物館ミニ移動講座（野鳥編2） 「秋の渡り鳥観察会」	豊北	10/16	講師：春日基江 10人参加
		博物館ミニ移動講座（歴史編4） 「史跡見学会」	幾千世鹿穴	10/17	講師：館長 7人参加

分類	事業名	事業内容	場所	期日	備考
教育普及		移動厳寒自然教室（厳寒期の小動物達の様子を探る）	豊北	2/5	講師：武藤満雄 63人参加
	レファレンス業務		博物館	通年	
	「博物館年報」の発行	第11号・A4判・59P・500部	博物館	11月	
	「博物館紀要」の発行	第11号・A4判・53P・500部	博物館	3月	
研修等	博物館協議会の開催	館長の諮問機関・年2回	教育文化センター	5/7 3/17	
	帯広百年記念館運営連絡協議会総会	帯広百年記念館運営連のための連絡協議体	帯広百年記念館	6/4	佐藤館長出席
	道東3管内博物館施設等連絡協議会総会		釧路市立博物館	5/26	佐藤館長出席
	博物館交流推進会議		幕別町忠類	7/11～12	佐藤館長出席
	北海道博物館協会学芸職員部会及び研修会		釧路市	9/16～17	佐藤館長出席
	文書等保存利用機関団体等職員研修会		札幌市	9/17	三上図書館司書出席
研究者等受入	職場体験学習	新聞資料カード化・収蔵資料クリーニングほか	博物館	9/30	浦幌中学校 2名
	北海道立アイヌ民族文化研究センター	アイヌ民具、椀・行器の漆器	博物館	10/15	吉原敏弘 藪中剛司
	日本大学	ヒグマ研究	博物館	随時	中村秀次ほか
	北海道大学	ヒグマ研究		随時	
	東京大学	ヒグマ研究	博物館	随時	浦幌中学校 2名
	横浜国立大学	化石の研究	博物館	随時	ロバート・ジェンキンス、井上清和

V. 博物館の事業



PL.1 春の草花観察会
…ウラボロイチゲ
(H22.5.1)

PL.2 端午の節句写真撮影会
(H22.5.5)



PL.3 新第三世紀の浦幌を探る
(H22.7.24)



PL.4 新第三世紀の浦幌を探る
(H22.7.24)

PL.5 K-T境界層見学会
(H22.8.8)



PL.6 懐かしき昭和30年代
(H22.6.1~13)

V. 博物館の事業



PL.7 故郷へ帰ってきたアロ
デスミス化石展
(H22.7.20~8.15)

PL.8 真夏の残像
…戦争体験を伝える
…「語り部の会・戦中
の食事体験」
(H22.8.6~22)



PL.9 開拓の歴史と流しそう
めん体験
(H22.8.22)



PL.10 新第三世紀の浦幌を探る
(H22.8.28)

PL.11 シンカイヒバリガイ化
石発見講演会
(H22.9.7)



PL.12 アートクレイシルバー教室
(H22.9.15)

V. 博物館の事業



PL.13 秋の草花観察会
(H22.9.18)

PL.14 開拓当時の農機具展示会
(H22.9.21～10.3)



PL.15 ヒグマの生態を探る
(H22.9.23)



PL.16 秋の渡り鳥観察会
(H22.10.16)

PL.17 史跡見学会
(H22.10.17)



PL.18 移動展
「北海道を描いた作家
たちの世界」
(H22.10.20~10.31)

V. 博物館の事業



PL.19 ロビーコンサート
「陸別リコーダアンサンブル」
(H22.11.6)

PL.20 ナイト・ミュージアム
(H22.11.27)



PL.21 町広報連載
トリおばさん写真展
(H22.11.2~22)



PL.22 新聞が語る昭和史
(H22.12.4~26)

PL.23 映像で見る昭和50年
代の浦幌
懐かしき8ミリ上映会
(H22.12.14・21)



PL.24 化石のレプリカづくり
教室
(H23.1.11)

V. 博物館の事業



PL.25 2010年年賀状展
(H23.1.16~26)

PL.26 ひなまつり
(H23.3.3)



PL.27 昭和27年十勝沖地震
回顧展
(H23.3.4~27)

VI. レファレンス業務

2010年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

- 黒岩農場について
- 十勝組合について
- 浦幌炭砦について
- 北海道にどんな動物がいるか調べている
- K-T境界について
- 紀要について
- 豊北トーチカについて

VII. 博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務 ②新聞資料等の整理 ③博物館図書の登録と整理 ④簡易な展示解説 ⑤調査研究活動の補助 ⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解読も行われている。現在の登録者は6名であるが、日常的に活動している者は2名である。

なお、古文書解読の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第10号に掲載した。

●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	16	5	11	11	10	10	13	12	3	2	15	20	128
延人数	3	3	3	3	2	2	3	2	1	1	2	2	27

●博物館ボランティア登録者

北町	春日 基江	住吉町	三浦 直春	栄町	橋本 友子	宝町	佐藤 明美
十勝太	市川 藤子	万年	坂下 禮子				

VIII. 博物館日誌 (抄)

平成22年

- 4月1日(木) 町辞令交付式。定例管理職会議。教育委員会辞令交付式。
- 4月2日(金) 臨時校長・教頭会議。
- 4月2日(金) 浦幌町商工会須藤富康氏来館。
- 4月16日(木) 博物館収蔵「端午の節句展」開催(～5月5日)。
- 4月19日(月) 定例教育委員会
- 4月23日(金) 定例校長会議。
- 4月23日(金) 日本大学ヒグマ研究グループ伊藤哲治・中村秀次・小泉沙奈恵氏来館。
- 4月26日(月) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
- 4月27日(火) 定例教頭会議。
- 4月28日(水) 定例管理職会議。
- 4月28日(水) 日本大学ヒグマ研究グループ伊藤哲治・小泉沙奈恵・宮脇有里氏来館。
- 4月30日(金) 浦幌幼稚園、団体見学。
- 5月1日(土) 博物館ミニ移動講座(草花編)「春の草花観察会・・・ウラホロイチゲ」。
- 5月5日(水) 博物館ミニ移動講座(野鳥編)「青い鳥を探そう・・・森林公園」。
- 5月5日(水) 端午の節句写真撮影会。
- 5月7日(金) 浦幌町博物館協議会開催(図書館協議会と合同開催)。
- 5月11日(火) 浦幌町議会議員福原仁子氏来館。
- 5月12日(水) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
- 5月15日(土) 博物館ミニ移動講座「物理・天文学見地からK-T境界層を探る」。
- 5月15日(土) 元浦幌高等学校物理教諭北村剛氏K-T境界層の研究。
- 5月19日(水) 浦幌炭砒中学校第2期卒業生、団体見学。
- 5月20日(木) 定例教育委員会。
- 5月21日(金) 厚内小学校、団体見学。
- 5月24日(月) 定例校長会議。
- 5月24日(月) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
- 5月25日(火) 定例教頭会議。
- 5月26日(水) 佐藤館長、道東3館内博物館施設等連絡協議会出席(釧路市)。
- 5月27日(木) 芽室町いきいき会、団体見学。
- 5月31日(月) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
- 6月1日(火) 収蔵資料「昭和の生活展」開催(～13日)。昭和の食体験教室「煎餅焼」。
- 6月2日(水) 定例管理職会議。
- 6月4日(木) 佐藤館長、帯広百年記念館運営協議会総会出席。日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
- 6月7日(月) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
- 6月12日(土) 博物館ミニ移動講座(歴史編)「史跡見学会・・・古の人々が住んでいた丘」。
- 6月15日(火) アイヌ文化伝承講座。
- 6月16日(水) アイヌ文化伝承講座。
- 6月18日(金) 定例教育委員会。

- 6月23日(水) アイヌ文化伝承講座。出先おびひろ会、団体見学。
- 6月24日(木) アイヌ文化伝承講座。定例校長会議。定例教頭会議。浦幌小学2年生、見学。
- 6月27日(日) 博物館講座ミニ移動講座（草花編2）「初夏の草花観察会・・・豊北海岸」。
- 6月29日(火) 釧路市立博物館友の会中塚和夫、美恵子氏来館。
- 6月30日(水) 愛媛県越智郡上島町津田淳氏来館。
- 7月2日(木) 定例管理職会議。
- 7月6日(火) アイヌ文化伝承講座。
- 7月7日(水) アイヌ文化伝承講座。幕別町立忠類小学校、団体見学。
- 7月13日(火) アイヌ文化伝承講座。
- 7月14日(水) アイヌ文化伝承講座。音更町昭和農地・水・環境保全組合、団体見学。
- 7月15日(木) 佐藤館長、厚内出土アロデスムス標本借用のため足寄動物化石博物館へ出張。
- 7月17日(土) 博物館ミニ移動講座（歴史編2）「史跡見学会・・・古の人々が住んでいた丘」。
- 7月20日(火) 故郷へ帰ってきた「アロデスムス化石展」開催（～8月15日）。アイヌ文化伝承講座。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。神奈川県小田原市岩本誠城氏、チャシの調査のため来館。
- 7月21日(水) アイヌ文化伝承講座。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 7月21日(水) 定例校長会議。
- 7月23日(金) 定例教頭会議。
- 7月24日(土) 博物館ミニ移動講座（地学編）「新第三世紀を探る」。
- 7月27日(火) 新ひだか町静内旭町島田哲也氏来館。
- 7月28日(水) 定例教育委員会。アイヌ文化伝承講座。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。浦幌町学童保育所、団体見学。
- 7月29日(木) 子ども木工教室開催。アイヌ文化伝承講座。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 7月30日(金) 浦幌の化石展（～8月5日）国内最古のシンカイヒバリガイ化石展開催。
- 8月2日(月) 定例管理職会議。帯広とかちエテケカンパの会、芦沢満氏来館。
- 8月3日(火) アイヌ文化伝承講座。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 8月4日(水) アイヌ文化伝承講座。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 8月5日(木) 本別町新津和一氏来館。
- 8月6日(金) 小企画展 真夏の残像・・・「戦争体験を伝える」開催（～22日）。
- 8月8日(日) 博物館移動講座（地学編2）「K-T境界層見学会」。
- 8月10日(火) 東京農工大学院連合農学研究科 小林喬子氏、日本大学ヒグマ研究グループ伊藤哲治氏・小泉沙奈恵氏・宮脇有里氏・染谷慧人氏・林和貴氏・中野可奈氏、浦幌ヒグマ調査会浦田剛氏来館。アイヌ文化伝承講座。
- 8月11日(水) 新ひだか町教育委員会藪中剛司氏ほか4名来館。アイヌ文化伝承講座。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏。
- 8月13日(金) 「すいとん」を食し戦時中・戦後の「食糧難」を考えよう。
- 8月16日(月) 日本大学ヒグマ研究グループ伊藤哲治氏・小泉沙奈恵氏来館。
- 8月17日(火) 幕別町糠内池田恵子氏来館。
- 8月18日(水) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
- 8月19日(木) 佐藤館長、アロデスムス化石レプリカ返却のため足寄動物化石博物館へ出張。
- 8月19日(木) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
- 8月22日(日) 三世代交流博物館講座「開拓の歴史編」と「流しそうめん体験」。
- 8月23日(月) 上浦幌老人クラブ、団体見学。

VIII. 博物館日誌 (抄)

- 8月24日(火) 定例校長会議。
8月25日(水) 定例教育委員会。
8月25日(水) シンカイヒバリガイ発見者、井上清和氏来館。
8月28日(土) 博物館ミニ移動講座(地学編3)「新第三世紀の浦幌を探る」。
8月30日(月) 定例教頭会議
9月1日(水) 収蔵資料「明治・大正・昭和の測量図面展」開催(～19日)。
9月1日(水) 定例管理職会議。
9月1日(水) 帯広市高齢者学級西帯わかば会、団体見学。
9月7日(火) 講演会「シンカイヒバリガイ化石発見の意義」。横浜国立大学特別研究員ロバート・ジェンキンス氏、講演のため来館。シンカイヒバリガイ発見者、井上清和氏来館。
9月8日(水) 横浜国立大学特別研究員ロバート・ジェンキンス氏来館。
9月11日(土) 博物館ミニ移動講座(歴史編3)「史跡見学会・古の人々が住んでいた丘」。
9月13日(月) 札幌内新北町コスモクラブ、団体見学。
9月14日(火) シンカイヒバリガイ発見者、井上清和氏来館。
9月15日(水) 秋の博物館文化講座「アート・クレイシルバー教室」開催。
9月15日(水) NHK帯広放送局リポーター田尻小夏氏・ほか2名収録のため来館。
9月16日(木) 佐藤館長、北海道博物館協会学芸職員総会及び研修会出席のため釧路市に出張(～17日)。
9月17日(金) 日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵氏来館。
9月18日(土) 博物館ミニ移動講座(草花編3)「秋の草花観察会・豊北海岸」。
9月21日(火) 収蔵資料「明治・大正・昭和の農機具展」開催(～10月3日)。
9月22日(金) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏・小泉沙奈恵氏来館。
9月23日(金) 博物館ミニ移動講座(野生動物編)「ヒグマの生態を探る」。
9月24日(土) 定例校長会議。
9月27日(月) 定例教育委員会。
9月28日(火) 定例教頭会議。
9月29日(水) 佐藤館長、千歳化石会へ化石受け取りに。
9月30日(木) 浦幌中学校2年生佐藤郁未さん・神田祐華さん、職場体験。
10月1日(金) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
10月1日(金) 定例管理職会議。
10月2日(土) 開拓当時の食事体験「イモ団子・カボチャ団子試食会」。
10月4日(月) 日本大学ヒグマ研究グループ中村秀次氏来館。
10月5日(火) 秋の絵手紙展(～17日)。
10月6日(水) 浦幌小学校教諭高岡愛子氏「浦幌小学校社会科郷土読本」作製資料借用のため来館。
10月8日(金) 浦幌小学校教諭高岡愛子氏「浦幌小学校社会科郷土読本」作製資料借用のため来館。
10月12日(火) 町博物館協議会委員春日基江氏来館。
10月15日(金) 北海道立アイヌ民族文化研究センター吉原敏弘氏、新ひだか町郷土館藪中剛司氏漆器の調査のため来館。
10月15日(金) 帯広百年記念館移動展「音の博物館なつかしのレコード」中央・厚内大学交流会で開催。
10月16日(土) 博物館ミニ移動講座(野鳥編2)「秋の渡り鳥観察会・豊北海岸」。
10月17日(日) 博物館ミニ移動講座(歴史編4)「史跡見学会・古の人が住んでいた丘」。
10月18日(月) 帯広百年記念館長松井由孝氏・飯田恵子氏、移動展設営のため来館。
10月20日(水) 帯広百年記念館移動展「北海道を描いた作家たちの世界」開催(～31日)。

- 10月21日(木) 定例校長会議。定例教頭会議。
- 10月22日(金) 博物館共催東十勝ロングトレイル・モニターツアー。
- 10月23日(土) 博物館共催東十勝ロングトレイル・モニターツアー。
- 10月25日(月) 定例教育委員会
- 10月25日(月) 佐藤館長、博物館ボランティア研修会出席のため札幌市へ出張。
- 10月27日(水) 東十勝ロングトレイル活動協議会事務局長伊豆倉寿信氏、浦幌町商工会事務局長須藤富康氏、浦幌炭砒写真借用のため来館。
- 10月27日(水) 十勝観光連盟、団体見学。
- 11月2日(火) 11月定例管理職会議。町広報連載「トリおばさん写真展」開催（～22日）。
- 11月5日(金) 標茶町、田中耕三氏来館。
- 11月6日(土) 秋のロビーコンサート「陸別リコーダーアンサンブル」開催。
- 11月8日(月) 浦幌中学校3年生「郷土の魅力探訪移動学習」、団体見学。
- 11月10日(水) 十勝ロングトレイル活動協議会事務局長伊豆倉寿信氏、環境資材有限会社所長小松信幸氏、帯広市谷崎由喜男氏、浦幌町商工会事務局長須藤富康氏、浦幌炭砒写真資料について来館。
- 11月12日(金) 新得町教育長山本均氏、博物館建設のため見学。
- 11月18日(木) 浦幌小学校4年生、団体見学。
- 11月20日(土) 秋のヴァイオリンコンサート開催。
- 11月22日(月) 定例校長会議。
- 11月24日(水) 浦幌小学校4年生、3人来館。
- 11月25日(木) しらかば保育園、団体見学。
- 11月27日(土) 秋の夜長の探訪会「ナイトミュージアム」開催。
- 11月29日(月) 定例教育委員会。
- 11月29日(月) 浦幌小学校教諭高岡愛子氏「浦幌小学校社会科郷土読本」作製資料借用のため来館。
- 11月30日(火) 浦幌小学校教諭高岡愛子氏「浦幌小学校社会科郷土読本」作製資料借用のため来館。定例管理職会議。
- 12月2日(木) 定例教頭会議。
- 12月3日(金) 浦幌町商工会事務局長須藤富康氏来館。
- 12月4日(土) 収蔵資料「新聞が伝える昭和史展」開催。
- 12月13日(月) 池田警察署刑事山田崇人氏、高橋裕徳氏来館。
- 12月14日(火) 「懐かしき昭和」8ミリ上映会開催。
- 12月18日(土) 秋の博物館ロビーコンサート「ゴスペルライブ」開催。
- 12月20日(月) 定例校長会議。
- 12月21日(火) 「懐かしき昭和」8ミリ上映会開催。浦幌小学校教諭高岡愛子氏「浦幌小学校社会科郷土読本」作成資料借用のため来館。
- 12月22日(水) 定例教育委員会。
- 12月24日(金) 定例教頭会議。
- 12月28日(火) 博物館協議会委員春日基枝氏来館。
- 12月29日(水) 定例管理職会議。
- 12月30日(水) 町仕事納め式。教育委員会仕事納め式。

平成23年

- 1月6日(水) 町仕事始め式。教育委員会仕事始め式。

VIII. 博物館日誌（抄）

- 1月11日(火) 博物館講座「化石のレプリカづくり教室」開催。足寄動物化石博物館長澤村寛来館。
- 1月15日(土) 春の博物館ロビーコンサート「収蔵資料レコードコンサート」開催。
- 1月16日(日) 2011年賀状展（～17日）開催。
- 1月21日(金) 定例校長会議。
- 1月24日(休) 定例教育委員会。定例教頭会議。
- 2月2日(水) 定例管理職会議。十勝ロングトレイル活動協議会事務局長伊豆倉寿信氏来館。
- 2月5日(土) 博物館講座「移動自然（厳寒）体験教室」開催。
- 2月12日(土) 春の博物館ロビーコンサート「収蔵資料レコードコンサート」開催。
- 2月15日(火) 収蔵資料「雛人形展」（～3月3日）。
- 2月22日(火) 定例校長会議。
- 2月23日(水) 定例教頭会議。浦幌幼稚園、団体見学。
- 2月24日(休) 定例教育委員会。
- 3月2日(水) 定例管理職会議。オーラポロひろば、団体見学。
- 3月3日(水) 収蔵資料「雛人形展」写真撮影会。
- 3月4日(木) 収蔵資料展「昭和27年地価地沖地震回顧展」～27日。
- 3月10日(木) 「食と地域の『絆』づくり」選定事例現地視察、団体見学。平成19年度博物館学芸員実習生、佐々木ゆかり氏来館。
- 3月17日(休) 浦幌町博物館協議会開催（図書館協議会と合同開催）
- 3月18日(金) 定例校長会議。
- 3月22日(火) 定例教頭会議。幕別町廣田實氏来館。
- 3月25日(金) 定例教育委員会。後藤秀彦氏来館。
- 3月26日(土) 春の博物館ロビーコンサート「収蔵資料レコードコンサート」開催。

IX. 博物館の利用状況

(1) 博物館入館者の推移

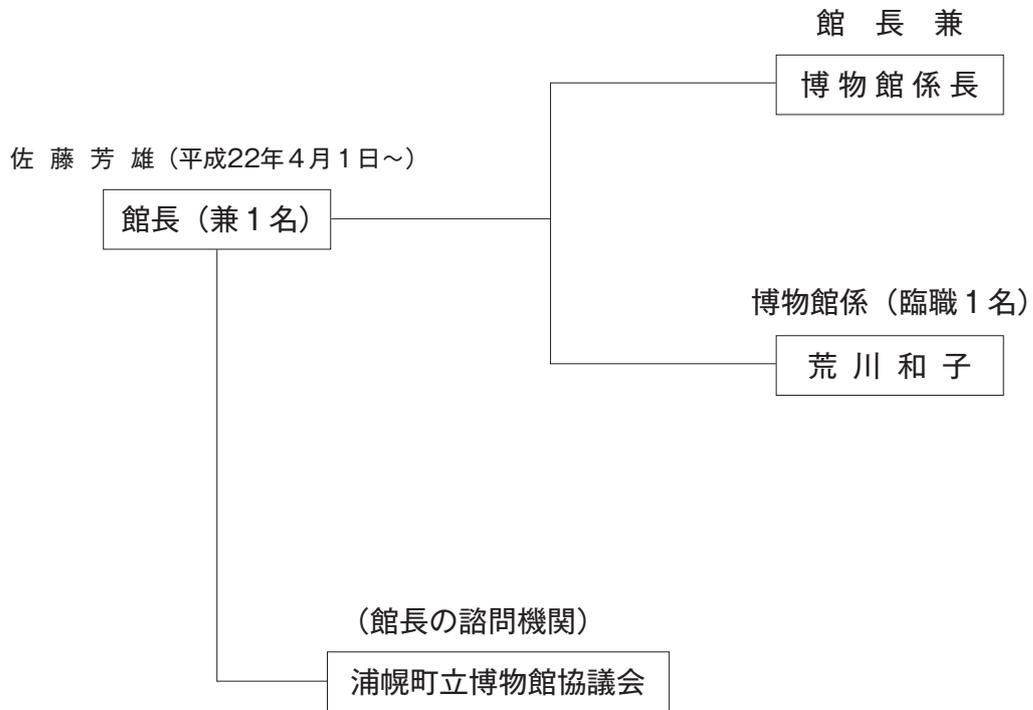
(平成23年 3月31日現在)

月	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	開館日数	入館者数										
4	25	667	25	990	25	630	25	725	25	573	25	582
5	23	498	24	912	25	561	25	602	25	647	25	545
6	26	908	26	541	26	785	25	843	25	739	26	654
7	27	1,000	25	762	26	857	27	817	27	616	27	862
8	26	1,167	27	883	27	1,115	27	1,022	26	1,058	26	1,111
9	25	812	24	611	26	881	24	588	24	707	25	848
10	26	867	26	775	26	639	27	589	27	967	27	729
11	24	1,342	25	474	24	525	25	764	24	599	23	859
12	26	655	24	372	25	583	24	652	25	613	25	482
1	22	522	22	428	22	371	23	497	23	558	22	501
2	23	743	24	477	25	476	23	300	23	423	24	472
3	26	1,018	26	812	25	662	25	752	25	490	27	826
小計	299	10,199	298	8,037	302	8,085	300	8,151	299	7,990	302	8,471
累計	1,877	63,630	2,175	71,667	2,477	79,752	2,777	87,903	3,076	95,893	3,378	104,364

(2) 団体入館者（事前に連絡のあったもの）

5月 30日	浦幌幼稚園	31人
5月 19日	浦幌炭砦中学校第2期卒業生	14人
5月 21日	厚内小学校	6人
5月 27日	芽室町いきいき会	21人
6月 23日	出先おびひろ会	14人
6月 24日	浦幌小学校2年生	6人
7月 7日	幕別町忠類小学校	17人
7月 14日	音更町昭和農地・水・環境保全組合	70人
7月 28日	学童保育所	16人
8月 23日	上浦幌老人クラブ	30人
9月 1日	帯広市高齢者学級帯広わかば会	80人
9月 13日	札内新北町コスモクラブ	30人
10月 23日	東十勝ロングトレイル協議会	36人
10月 27日	十勝観光連盟	15人
11月 8日	浦幌中学校3年生	36人
11月 18日	浦幌小学校4年生	30人
2月 6日	東十勝ロングトレイル活動協議会	26人
2月 25日	浦幌幼稚園	54人
3月 14日	ボランティア友愛会	13人

X. 博物館の組織



平成23年3月31日現在

職名	氏名	住所	備考
会長	橋本友子	栄町2区	
副会長	有坂一子	住吉町2区	
委員	太田朋則	住吉町1区	
〃	武田悟	緑町	
〃	赤間孝之	南町	
〃	円子紳一	北栄2区	
〃	春日基江	北町2区	
〃	市川藤子	十勝太	

(任期 平成23年12月18日まで)

XI. 博物館活動のマスコミ報道

**実物の鎧兜や
五月人形展示**
町立博物館

【浦幌】町立博物館の「端午の節句収蔵展」が、教育文化センター（5月21）1階ロビーで開かれている。鎧兜（よろいかぶと）や五月人形が展示され、訪れた親子連れの目を引いている。

鎧兜1組は1968年に町民から寄付された。戦国時代から江戸時代ごろにかけ、実際に使われたものとみられている。このほか、五月人形の段飾りやこいのぼり、70〜80

鎧兜やこいのぼりなどが並ぶ収蔵展会場



年代のアニメキャラクターのメンコなどもある。

（015・576・2009）へ。

（大笹健郎）

5月5日まで。午前10時〜午後5時。最終日は午後1時〜同5時の間、五月人形と一緒に写真撮影ができ、同館が参加者に一枚を贈る。

29日と30日、4日は休館。問い合わせは同博物館

「十勝毎日新聞」 2010年4月17日



白い花咲かせる ウラホロイチゲ

町立博物館が観察会

【浦幌】十勝では浦幌だけに自生する植物「ウラホロイチゲ」



ウラホロイチゲの群落を観察する参加者（上）と白い花を咲かせたウラホロイチゲ（下）

「チゲ」の観察会（町立博物館主催）がこのほど、町内で開かれた。

ウラホロイチゲはキンポウゲ科のイチリンソウの仲間。国内でも浦幌と釧路管内でしか確認されていない。4〜5月に原野や林で、かわいらしい白い花を咲かせる。

この日は町内外から7人が参加。同博物館の佐藤芳雄館長や、アウトドアに詳しい町内の坂下禮子さんをガイド役に、集合場所の博物館から現地へ移動。枯れ草の中から顔を出す群落を観察した。

参加者は花びらのように見える白いがくの数が5〜8枚

「十勝毎日新聞」 2010年5月9日

と一定でない様子や、近い種類のキクザキイチゲとの形の違いなどを学んだ。このほか、ザゼンソウなど近くに咲いている花も観察した。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年5月11日



さえずりが
お出迎え

春の野鳥観察会

【浦幌】春の野鳥観察会「青い鳥を探そう」(町立博物館主催)がこのほど、うらほろ森林公園で開かれた。青空の下、参加者が森を散策し、身近な自然の豊かさを再認識した。

毎年、5月初旬に日本に渡って来る青い鳥・オオルリを観察しようと企画。午前8時、町内外の11人がみりの館前に集結。同館の佐藤芳雄館長が「いろいろな渡り鳥がやって来る。一番最初が、青い森林公園で野鳥観察を楽しむ参加者」

鳥。多くの鳥が見られると思しとあいさつした。園路に沿って公園の奥に向かって、渡り鳥のアオサやハクセキレイがお出迎え、鳥のさえずりが響き、小さな花々が咲く林内を歩いた一行は「いい声だね」「気持ちがいい」と散策を楽しんだ。お目当てのオオルリは姿を

Ｔシャツ販売で資金確保

浦幌ヒグマ調査会 フィールドワーク開始

【浦幌】「浦幌ヒグマ調査会」(佐藤芳雄代表)のフィールドワークが今年度も始まった。日本大学などの学生が「保へ、オリジナルＴシャツも販売している。」



オリジナルＴシャツをPRする浦幌ヒグマ調査会の学生たち

同会は、ヒグマと人間の共生を目指して1998年6月に結成。日本生物資源科学部の佐藤喜和さん(森林動物学研究室)と学生、北大ヒグマ研究グループ、地元のハンターで構成し、町立博物館や住民の協力を得ながら山中深く歩き回り、調査を展開。成果は卒業・修士論文や学会での発表に生かされ、子供を対象にした「ヒグマの学校」など普及啓発や農業被害の防止にも取り組む。会員数は約100人。このほど町内で定期総会を開き、今年度1回目の調査は学生や大学院生ら8人が来町。4月下旬から今月4日にかけて、町内の道有林でヒグマが背中を掻きつける木の回りりと足跡、ふん、食痕探し、さら

には道東全域におけるヒグマの生熊調査を行った。夏季と秋季にもまとまった日数で調査を行う予定。Ｔシャツ販売は活動のための貴重な財源確保。学生たちが描いたヒグマの手や自然の中の姿、マンガ調のイラストなど絵柄は6種類で、サイズもキッズから上まで6種類。1枚1000円。制作者の1人、小泉沙奈恵さん(日大4年)は「ほかでは買えないヒグマのかわいイラスト入り。ぜひ協力を」と話している。購入希望、問い合わせは同会(urahoro_beat@ya.hoo.co.jp)へ。(大館健郎)

「十勝毎日新聞」 2010年5月12日

いん石が残した
貴重な地層知る

「K/T境界層」見学

【浦幌】町立博物館主催のミニ講座「K/T境界層を知ろう」が15日、町茂川流布の道有林内で開かれた。町内外から10人が参加し、6500万年前のいん石衝突がつくった貴重な地層を見学した。恐竜絶滅の原因といわれるこの衝突では膨大な量の物質

が全世界に降り注いだ。それが堆積（たいせき）した同境界層はアジアでも浦幌で見つかった貴重なもの。道有林の奥にある、普段はゲートを閉めている。

主宰者の北村剛さん（71）が「いん石は秒速8kmの猛スピードでメキシコのユカタン半島付近に衝突した。地球内部からも物質が舞い上がった」「ここで見られる地層は当時太平洋の海底にあった。境界層の下の白い地層はプランクトンなどが堆積したとみられる」などと説明。参加者は興味を募らせながら聴き入った。この後、町立博物館も見学した。（大笹健郎）

一行は車に分乗して現地へ。元本別高校長でさっぽろ物理塾



「十勝毎日新聞」 2010年5月17日

あす博物館講座で
K/T境界層見学

【浦幌】町立博物館主催のミニ講座「K/T境界層を知ろう」が15日、開かれる。午前9時45分までに教育文化センター（町桜町15）前に集合。各自の車で現地に向かい、見学する。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2010年5月14日



驚き

「すごい、音が鳴った！」初めて見る蓄音機。厚内小の児童もびっくり（浦幌・町立博物館で）

〔十勝毎日新聞〕 2010年5月26日

出土品など深く考察

浦幌博物館「紀要」と「年報」

【浦幌】町立博物館はこのほど、「研究紀要」と「年報（第10号）」を発行した。研究紀要には、岡山県在住の研究者小西猛朗氏の論文「十勝太若月遺跡から出土した炭化大麦」などを掲載している。研究紀要は1972～96年に出した「郷土博物館報告」から継続して発行し、通算で

は55冊目。小西氏の論文では、火災で焼失したとみられる擦文時代の住居跡から見つかった炭化大麦について、形状や遺伝的形質を分析し、大陸からどう北海道に伝わったかなどを考察している。

また、日本大学生物資源科学部の佐藤喜和氏と同大学院

生物資源科学研究所の中村秀次氏が、浦幌でのフィールドワークを基にまとめた「カラマツ人工林におけるヒグマの生息地適性」も掲載。

このほか、巻頭では2009年度に採集された同館所蔵のチョウの標本リストを紹介。和歌山満氏の「浦幌町厚内における位置（緯度、方位）指標としてのOrion星」や、三浦直春氏による明治時代の村有地に関する書類の解説も載せている。A4判、54頁。

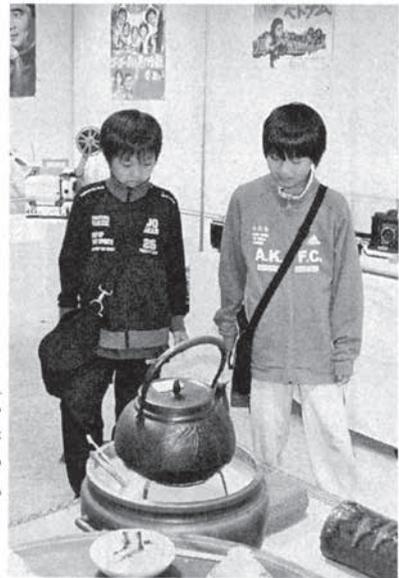


一方、年報には同館の常設展示の一覧、09年度に受け入れた資料や年間事業の報告などを収録した。A4判、58頁。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。（大管健郎）

発行された研究紀要（右）と年報

〔十勝毎日新聞〕 2010年6月1日

あんかや湯たんぽ…200点



昭和の生活用品に興味深そうに見入る子供たち

懐かしき「昭和展」 浦幌

【浦幌】町立博物館の収蔵品約40年代生活展が、13日まで資料展「懐かしき昭和30年代」で同館1階の特別展示室で開

「十勝毎日新聞」 2010年6月10日

かれています。

5日の開町記念日に合わせた企画。この時代のおんかや湯たんぽ、オーブンリール式のテープレコーダーやラジオセ、8ミリ映写機などの電化製品、ザ・スパイダース主演の映画ポスター、当時の町内の街並みや人々の写真など、生活文化がしのばれる計約200点を展示している。

訪れた子供たちも、自分たちが生まれる前につくられた当時の最新鋭機器や生活用品に興味津々の様子。高橋広大君（浦幌小6年）は「インスタントカメラや電動式計算機は見たことがなく、驚いた」と話していた。

午前10時～午後5時。入場無料。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。（大笹健郎）

十勝太Dチャシ跡で説明看板を読む参加者



浦幌博物館 見学会スタート

縄文遺跡や湿地学ぶ

【浦幌】町立博物館で佐藤 模な見学会を開き、町の文化の史跡や文化財を回る見学会をスタートさせた。2年がかりで町内約50カ所を回り、町の歴史や自然の魅力を知ってもらう試み。第1回の「古（いにしえ）の人々が住んでいた丘」には幼児から大人まで10人が参加、遺跡を残した人々に思いをはせた。

町内は国指定、道指定の縄文・弥生、アイヌ文化期の遺跡が多数発見されている。開拓時代の多残である馬蹄跡や邸宅跡などもある。十勝川河口付近の湿地や広大な山林は、希少な種や個性的な動植物にあふれている。同博物館は、月1回程度、定員10人の小規模な見学会を開く。参加者は、耳かきの先みたい「これは花が実？」など興味津々だった。家族で参加した本郷花さん（浦幌小6年）は、

跡は高い所にあっても、発掘の体験もしたい」と話していた。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年6月16日

■浦幌 出先おびひろ会が懇談

管内に支店や支社を置く企業でつくる「出先おびひろ会」(会長・岡村一郎北電帯広支店長)のメンバーが24日、町役場を訪れ、水沢一広町長らと懇談した。



岡村会長が「浦幌は子供のアイデアを生かしたまちづくりなど工夫を凝らし、新しい力を持つ元気な町という印象。楽しみにしてきた」とあいさつ。水沢町長が歓迎の言葉を述べ、町の概要を説明した。一行はこの後、町立博物館やペレット工場などを見学した＝写真。

「十勝毎日新聞」 2010年6月26日

あす浦幌の
史跡見学会

博物館移動講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座・歴史編「町内の史跡見学会」パート1 古(いにしえ)の人々が住んでいた

丘」が12日、町内の遺跡などで開かれる。

午前9時に同博物館(教育文化センター)の駐車場に集合。十勝太、厚内方面にあるチャシ(アイヌ語で「柵」や

「柵囲い」の意味)や縄文、擦文時代の遺跡など、町の文化財標識のある場所を中心に見学する。参加無料。雨天中止。申し込みは同博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2010年6月11日

27日草花観察会

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座(四季編)「初夏の草花観察会」が27日、豊北海岸で開かれる。

午前9時に町桜町の同博物館駐車場に集合。同海岸に移動し、ハマエンドウなどを観察する。途中でワタスゲも観察できる。参加無料で定員10人。雨天時は中止。軍手、長靴など野外活動に適した服装で。申し込みは前日までに同博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2010年6月23日

17日に史跡見学会

博物館移動講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座、町内の史跡見学会「古(いにしえ)の人々が住んでいた丘」の第2回が、17日に町内で行われる。

午前9時に同博物館(町桜町、町教育文化センターらぼろ21内)前の駐車場に集合、厚内、直別方面に向かい、国史跡のオタフンベチャシ跡や黒岩農場跡地などを見学する。正午ごろ博物館に戻る予定。

定員は10人(申し込み順)。小学生以下は父母同伴。野外活動に適した服装で。参加無料、雨天中止。問い合わせ、申し込みは同博物館(015・576・2009)へ。

〔十勝毎日新聞〕 2010年7月8日

海だつた浦幌
化石から探る

24日に移動講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座(地学編)「新第三紀の浦幌を探る」が、24日午前9時から町内で開かれる。

当日は同館(教育文化センター)駐車場に集合。厚内や上厚内周辺で二枚貝の化石を採集しながら、浦幌が遠浅の海だった1500万年前の地形を考察する。定員10人。小学生以下は保護者同伴。帽子、軍手、長靴など、野外に適した服装で。ハンマーがあると便利。雨天中止。

申し込み、問い合わせは同館(015・576・2009)へ。

〔十勝毎日新聞〕 2010年7月19日

歴史に思いはせる

史跡見学会

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座・史跡見学会

「古(いにしえ)の人々が住んでいた丘」の第2回がこのほど、町内で開かれた。

町民5人が参加。直別地区の国史跡のオタフンベチャシ跡では、高さ27センチの丘の上に円形の壕(ごう)で囲まれた平地がつくられているのを観察した。写真。

また、札幌農学校でクラーク博士の門下だ



った黒岩四方之進が明治期に開設した黒岩農場跡地なども見学し、歴史に思いをほせた。(大笹健郎)

〔十勝毎日新聞〕 2010年7月22日

浦幌町立博物館

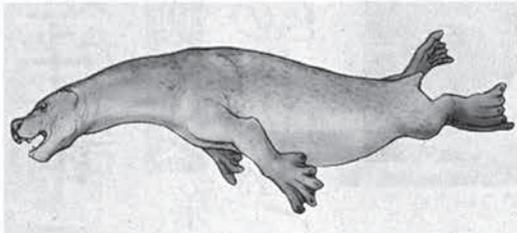
1500
万年前に生息「アロデススムス」

化石模型が“里帰り”

【浦幌】1991年に町厚内のオコッペ沢の川床から発見された約1500万年前の「アロデススムス」(アザラシの仲間)の化石のレプリカが、町立博物館(佐藤芳雄館長)の企画展として展示されている。同レプリカは足寄動物化石博物館の所蔵で、浦幌での公開は今回が初めて。佐藤館長は「地元で発掘された貴重な化石。ぜひ家族で見て」と話している。



町立博物館で公開されているアロデススムスの化石レプリカ



アロデススムスは約1600

万年前から1200万年前に太平洋に生息。アザラシやトド、セイウチなどと同じ齧歯類(ききやく)類に分類される。アザラシと共通の祖先から進化したもので、「デスマトフォカ科」(現在は絶滅)に分類される。体長33センチ、体重300グラム以上にもなったとされ、大きな目と歯が特徴。温かい海にすみ、深く潜って魚やタコなどを食べていたと考えられている。

浦幌で見つかった化石は、アロデススムスの想像図(イラスト)図鑑ウェブサイトで「古世界の住人」提供)

シンカイヒバリガイの新種「バシモディオルス・イノウエイ」などの発掘で知られるアマチュア化石研究家の井上清和さん(帯広)が、91年10月にオコッペ沢で化石を含んだ岩塊を収集。92年5月、足寄町教委の化石研究室スタッフが岩塊を発掘した。長さ21センチ、幅1.2センチの中にほぼ全身の骨が含まれ、発見当時は国内初の全身骨格の産出として注目された。

レプリカは、化石のクリーニングを行った足寄動物化石博物館が製作。クリーニング後の岩に埋もれた状態で複製し、展示してきた。

今回はこれを町立博物館が借り受け、地元浦幌での展示が初めて実現。頭部が一部欠けているものの、頭蓋(ずが)骨の大きな眼窩(か)がよく分かり、そのほかの全身の骨格もくっきりと浮かび上がっている。比較のため、現代のゴマアザラシの剥製(はくせい)も並べて展示している。

来館した子供たちも興味津々の様子で、中田翔洋君(浦幌小6年)は「浦幌にこんな動物がいたとは知らなかった。大昔のことに興味がわいた」と話していた。企画展は8月15日まで。入館無料。

(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2010年7月27日

貝の化石、あったよ！

浦幌博物館講座 発掘体験に笑顔



掘り出した化石を手に笑顔の小学生

【浦幌】町立博物館ミニ移動講座（地学編）の「新第三紀の浦幌を探る」がこのほど、町内地区の河原で行われ、化石が露出した場所が多

く、シシカイヒバリガイの新種やオロデスミス、デスマスチルスなどの化石が発見されている。今回の講座は、町内のこうした学術資源を町民に身近に感じてもらうと企画された。

参加者は同博物館から車で現地向かい、町内の元中学教諭和歌山満さん（62）を案内役に出発。幅員はどの地層に無数の貝の化石が埋まり、河岸のがけから川床まで続いている様子に驚きの声を上げた。

この地層は新第三紀（約2400万～約170万年前）のうち「直別層」と呼ばれる約2300万～約500万年前のもので、当時は貝殻が打ち寄せられて集積した海岸だったとみられている。貝殻は多くがはっきりと形が残

り、参加者は「まるで（人間 小学生）は「貝の化石を掘がついた貝塚みたい」と感嘆を話した。川底では、上流から流れてきたとみられる珪藻も見つかった。参加した木下姫花さん（浦

ヒバリガイの新種

【浦幌】上越教育大（新潟県 上越市）の天野和孝教授が町内の展示となり、来館者の関心を集めている。5月に新種と発表されたシシカイヒバリガイの仲間「バシモディオルス・イノウエ」の化石が、町立博物館（町）で改めて発掘した同種の化石を展覧会で開館中の「浦幌の貝化石」展に展示されている。新種とる。



浦幌の貝の化石が多数並ぶ展示会場

バシモディオルス・イノウエ 5日まで浦幌町立博物館

お目見え

井上さんは大昔の深海に生きていた貝子供たちにはタイムマシンと潜水艦に乗ったもので、浦幌が海の盛った時代を想像してほしいと話している。このほか、約3500万年前と約1680万年前の町内の地層から出た多数の貝の化石や、新種と判明した。（大笹健郎）

中心に化石が入ったスケジュール（岩塊、同じく町内で発見されたK/T境界層の資料も並んでいる。5日まで、午前9時～午後6時、入場無料。浦幌は、貝の化石を多数含む地層が露出した場所が多いことで知られる。「バシモディオルス・イノウエ」は井上さんが情報提供し、昨年8月、天野教授が町内の約300万年前の地層から発掘、調査の結果、新種と判明した。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年7月31日

「十勝毎日新聞」 2010年8月2日

「小惑星の衝突」に触れよう

浦幌で8日「K/T境界層」見学会

【浦幌】恐竜が絶滅したきっかけとされる6500万年前の小惑星衝突の痕跡「K/T境界層」(町茂川流布)の見学会(町立博物館主催)が8日、現地で開かれる。同境界層は、アジアでは浦幌しか見つかっていない貴重な地層。同博物館は「道有林の奥にあり、普段はゲートがあって見学できない。一般の方には貴重な機会」と参加を呼び掛けている。



繁栄していた白亜紀の地層と、哺乳(ほにゅう)類が出現した第三紀の地層の境界に存在する。小惑星の衝突で巻き上げられた粉じんなどが堆積(たいせき)した1〜3センチの地層で、この時代に地球環境は激変、恐竜も滅んだと考えられている。

一般向けの見学会は、足寄動物化石博物館が1993年に開催して以来、しばらく行われていなかった。2008年から、町や町立博物館などが十勝森づくりセンター(現

十勝総合開発局森林室)の協力で実施している。

当日は午前8時に町立博物館(町教育文化センターらほろ21)前に集合し、現地向かう。正午前に同博物館に戻り、引き続き澤村館長が、化石レプリカが特別展示されている1500万年前のアザラ

▼夜12時まで営業!!
街の花屋さん
 〒015-8501 浦幌市 24-6-63

シの仲間「アロテスミス」について解説する。

現在、参加者を募集中。定員30人(申し込み順。保険料として1人93円が必要。飲料水や虫よけスプレーなどを持参。長靴、軍手、帽子など野外活動に適した服装で。小学生以下は保護者同伴。申し込みは町立博物館(015・576・2009)へ。締め切りは5日。(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2010年8月2日

知得北海道

●恐竜絶滅の謎に迫る見学会 【浦幌】十勝管内浦幌町の町立博物館(佐藤芳雄館長)は8日午前8時から、6500万年前の恐竜絶滅の謎を解く証拠とされ、日本で唯一同町内で見つかっている中生代と新生代の境界地層「K/T境界層」

の見学会を開く。

この地層は地球表面に少ない元素を含み、小惑星の地球衝突で環境が激変して恐竜が絶滅したと変して恐竜が絶滅したとの学説を裏付けるとされる。見学会は沢村寛・足寄動物化石博物館長が案内する。小学生以下は保護者同伴。保険料として1人93円かかる。定員30人。雨天中止。申し込みは6日正午までに同博物館(015・576・2009)へ。

「北海道新聞」 2010年8月5日

「十勝毎日新聞」 2010年8月11日

13日に厚内 空襲を語る会

【浦幌】町立博物館は、13日正午から同館で「語り部の会 厚内空襲を語る」を開催する。
厚内空襲は1945年7月



世相伝える 戦時中の品々

博物館で展示
【浦幌】町立博物館の企画

展「真夏の残像」戦争体験を伝える」が、同館で開かれている。町民から寄せられた戦時中の貴重な資料が並び、関心を集めている。22日まで。

平和の尊さを考える機会に」と毎年夏に開催。防空演習の資料や出兵した町民の手紙、厚内地区にあった防空監視哨の写真などのほか、当時の世相を伝える写真ニュースも展示している。

入場無料。午前10時～午後5時。

(小林祐巳)

戦争の悲惨さを伝える企画展会場

15日早朝に起き、米軍機の攻撃で4人が犠牲になった。語り部の会では、戦争を体験した人々と戦時の「すいとん」を食べた後、午後0時半から、16歳のときに厚内空襲を経験した町内在住の坂井英さん(81)の話聞く。

坂井さんは12歳で徴用さ



【浦幌】恐竜が絶滅した原因の1つとされる約6500万年前の小惑星衝突の痕跡「K/T境界層」(町茂川流布)の見学会(町立博物館主催)がこのほど、現地で開催された。管内外の親子連れら約40人が参加し、太古の地球に起きた天変地異に思いを巡らせた。

太古の地球に思い巡らす

浦幌「K/T境界層」見学会に40人

川底に露出したK/T境界層(中央の黒い部分)。白く見える地層は、隕石落下の影響で死滅した生物の遺骸からできた

ぞき込み、手で触れた。

札幌市から参加した松嶋修幸君(屯田南小5年)は「隕石が落ちたときに他の生き物が生きていて、その後、米えたのがすごい」と笑顔。幕別町の坂口桃花さん(幕別小5年)は「恐竜がどうして滅びたか興味があった。勉強になった」と話していた。

一行はこの後、町立博物館で、展示中の1500万年前の哺乳(ほにゅう)類「アロステムス」や、約3000万年前の「シンカイヒバリガイ」の化石も見学した。

K/T境界層は恐竜が繁栄していた白亜紀の地層と、哺乳類、鳥類が勢力を伸ばす第三紀の地層の境界に存在。小惑星の衝突で巻き上げられた粉じんなどが堆積した地層で、この時代に地球環境は激変、恐竜も滅んだとされる。国内では唯一、浦幌で発見されている。(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2010年8月13日

厚内空襲の悲劇語る

——浦幌の坂井さん——

町民ら「すいとん」食べ聞き入る



すいとんを食べながら戦争体験を聞く子供ら

【浦幌】町立博物館主催の「用食「すいとん」を食べ、同「語り部の会」厚内空襲を語り、空襲を体験した坂井英さん（81）が13日、同館で開かれ（81）浦内在住の話を聞いた。町民ら約20人が戦時の代を傾けた。

坂井さんは上厚内地区出身。12歳で徴用され、軍属として千島列島で飛行場建設に従事。厚内防空監視哨に勤務

していた1945年7月12日には、太平洋上に航空母艦（空母）1隻と護衛の艦艇を発見。「14日には釧路空襲があり、街が燃えるのが見え、列車は釧路に行かず厚内駅で立ち往生した」という。同日早朝、監視哨で3人で見張りをしていて、艦載機が飛来して機銃を掃射。近くの側溝に隠れたが、3人のうち林鈴子さん（享年16）が直撃を受け、亡くなった。ほかに民間人2人、軍人1人が死した。

これまで人前で戦争体験を語ることは少なかったが、「私たちが年を取り、これらの子供は直接体験を聞くことができない。私が実際に目を見て体験したきょうの話を書いて、伝えてほしい」と呼び掛けた。

参加した堀川野咲さん（浦幌小6年）は「小学校を卒業

「十勝毎日新聞」 2010年8月15日

してすぐ、軍の施設で働いたというのが実感できない。厚内空襲の話を通じては初めて話していた。すいとんは町内の佐藤道子さん（91）らが調理。参加者は小学生も交え、イモのでんぶん搾りかすや、ササの実に食べた体験談を語り合い、味わった。（大笹健郎）

軍靴や銃 戦争「雄弁」

浦幌の博物館で企画展

【浦幌】町立博物館、軍事訓練用の木銃で企画展「真夏の残像」などのほか、徴兵され、戦争体験を伝える一冊が開かれている。町民から寄せられた資料をへ書き送った手紙や日記、戦時下の住民が不自由を強いられたり、戦争遂行組織の一部に組み込まれていく過程が分かる内容となっている。

浦幌町の厚内では1945年（昭和20年）7月15日、米軍機の機銃掃射で2人が死亡。浦幌市街でも攻撃があり、貴老路小学校舎は大



町民から寄せられた戦争体験を伝える品々に見入る入館者

破、吉野郵便局近くには不発弾が落ちたという。こうした記録も見ることもできる。入場無料。22日まで。（十屋孝浩）

今も残る、上陸部隊迎撃用トーチカが造られた経緯にも触れている。入場無料。22日まで。（十屋孝浩）

「北海道新聞」 2010年8月17日

三世代で流しそうめん

地域史も学習 浦幌・博物館講座に70人



流しそうめんに大喜びの子供たち

【浦幌】三世代交流博物館の風物詩を楽しんだ。講座「流しそうめん体験」と「開拓の歴史」(町立博物館、浦幌社境内で実施。参道の傾斜を利用し、長さ32尺の流し台を設置した。「32」には「みんなでにぎわう」の意味を込めたという。同塾のメンバーやボランティアが10口の流しめんをゆでて、一口大にまめて流し、白玉団子や野菜も小さく切って流した。子供たちをはじめ参加者は大喜び。高低差で加速がつき、めんを受けてこぼるなど

のハプニングもあり、笑いとおどろいた。干場月菜さん(浦幌小2年)は「そうめんもお団子もおいしかった」と笑顔を見せ、同塾の二瓶隆会長は「また来年も開きたい」と話していた。

これに先立ち、町立博物館では開拓の歴史をテーマにした講座が開かれた。郷土史研究家の高橋悦子さんが、蓄音機や竹スキー、アルミの弁当箱などの資料を手に、開拓以来の人々の暮らしを説明した。

(大笹健郎)

【十勝毎日新聞】 2010年8月25日

貝の化石採集 しませんか？

あす博物館ミニ講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座・地学編パート3「新第三期の浦幌を探る」が28日、町内の上浦幌・留真地区などで開かれる。カキ貝や巻貝の化石を採集しながら、浦幌が遠浅の海だった時代について考える。

同博物館(教育文化センター)前の駐車場に集合。昼ごろまでに終了の予定。参加費は保険料93円。帽子、軍手、長靴、虫よけ、飲料水など野外活動に適した装備で参加する。雨天中止。

申し込み、問い合わせは同博物館(015・576・2009)へ。

防災・防犯設備
ご相談は**フジ防災**
電話2389787 24時間受付中

【十勝毎日新聞】 2010年8月27日

浦幌町立博物館

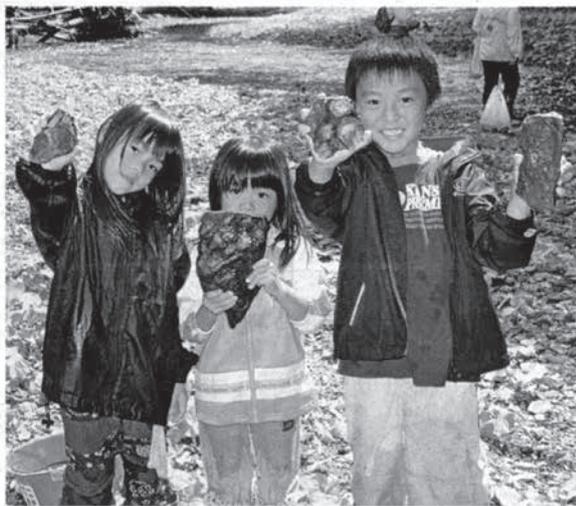
葉脈くつきり 化石に大喜び

炭鉱跡付近で移動講座

【浦幌】町立博物館（佐藤 芳雄館長）の「ミニ移動講座 地学編パート3」が28日、町炭山の浦幌炭鉱跡付近で行われた。町内外から15人が参加。約3000万年前の化石に触れ、歓声を上げた。

地学編は、K/T境界層見学、厚内地区の化石発掘に次ぐ開催。佐藤館長や町内の元教諭和歌山満さんを案内役

に、同炭鉱付近を流れる常室川や双雲川の河原で開いた。参加者は上流の露出した地層から運ばれてきた石炭をはじめ、カキ貝などの貝や木の化石を採集。特に葉脈も浮き出た木の葉の化石には、大喜びしていた。初めて炭鉱跡を訪れた人も多く、石炭を運ぶ列車が通ったトンネル「尺浦隧（すい）道」や空気口の跡



採集した化石を手に大喜びの子供たち

など、炭鉱施設の遺構も熱心に見学していた。

帯広から参加した村上大輝君（8）は「炭鉱も初めて見学できたし、早起きして来たか良かった」と話していた。

（大管健郎）

喜び。大輝君は「たくさん取れてうれしい」と笑顔。父の修さん（37）は「炭鉱も初めて見学できたし、早起きして来たか良かった」と話していた。

（大管健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年8月31日

【浦幌】上越教育大（新潟県上越市）の天野和孝教授が町内で発掘し、5月に新種と発表したシンカイヒバリガイの仲間「バシモディオルス・イノウエイ」の化石をテーマにした講演会（町立博物館主催、町中央公民館共催）が、7日午後7時から町教育文化センター2階視聴覚室（町桜町、町立博物館・図書館2階）で開かれる。

講師は、天野教授とともに新種発見にかかわった古生物学研究者ロバート・ジェンキンス博士（横浜国立大学

シンカイヒバリガイ
新種発見で
7日講演会
浦幌

特別研究員）。「シンカイヒバリガイ化石発見の意義」と題して話す。

同化石は約3000万年前の前期漸新世（下部漸新統）の地層から発見され、国内最古で、世界でも2番目に古い。情報提供した帯広市のアマチュア化石研究者井上清和さんの名前が学名に付けられた。講演会ではこの貝の生息していた環境や、今回の化石発見の学術的意義が語られる予定。参加無料。定員30人。申し込みは町立博物館（015・576・2008）へ。（大管健郎）

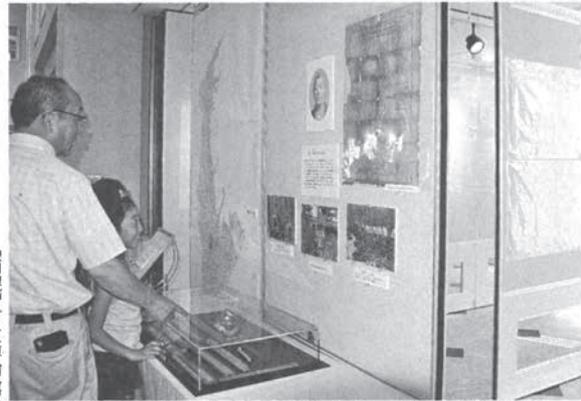
「十勝毎日新聞」 2010年9月1日

浦幌の変遷伝える 測量図など80点

19日まで町立博物館

【浦幌】町立博物館の収蔵資料展「明治・大正・昭和の測量図面展」が1日、同館(町桜町)で始まった。明治の開拓初期から昭和初めにかけての、浦幌のまちの変遷を伝える測量図や市街計画図など約80点を公開している。19日まで。

展示された測量図、測量器具の多くは、町を開拓した大農場の1つ「土田農場」の開発主任として開墾事業を成功に導いた君貞次(きみ・またじ)氏(1874~1947年)の手によるものとみられている。君氏は生剛村(現在の浦幌町の一部)の村議や学務委員などを務め、町民の信頼も厚く、道路、橋梁(きょうりょう)



明治から昭和にかけての測量図などが並ぶ資料展会場

「十勝毎日新聞」 2010年9月3日



団体来場者でにぎわう浦幌町立博物館。後方が測量図面展会場

うのよう)の測量設計や民有地の区画づくりなどに幅広く携わった。

これらの資料は、孫で大津・十勝川学会前会長、元道教官大教授の君尹彦(きみ・のぶこ)氏(1936~2008年)が生前、町に寄付した。尹彦氏が豊頃町報徳館に

残した10万点余りの歴史民俗資料は現在、北大、札幌大、藤女子大台同の調査団が調査を進めており、祖父・貞次氏の測量図はこれらの1つとして大きな意味を持つ。

同調査団の川上淳・札幌大文化学教授は「測量図を作るには高い技術が必要だった

は、貴重な史料。学者としての尹彦氏の、人となりを考える意味でも興味深い」と話している。

展示は午前10時~午後5時。問い合わせは同館(015・576・2009)へ。(大笹健郎)

浦幌駅の建設きっかけ

設計図に見る 市街地の移転

80点博物館で収蔵展

【浦幌】町立博物館の収蔵資料展「明治・大正・昭和の測量図面展」が1日から始まった。太平洋戦争前に早くからひらけた生剛地区に整備された市街地が、浦幌駅が建設されることになり、内陸部の現市街地をより引越した歴史などが、明治30年代の手書き資料などからうかがえる。浦幌市街設計図や測量道具などと合わせて約80点が展示されている。(土屋孝浩)

浦幌の歴史は明治33年村から分かれて生剛地(たどき)から始まる。学年1900年、大津区に戸長役場が置かれ、校や医院、駅通所、学

査駐在所もあったが、明治36年12月に浦幌駅が開業。駅前を新たに整備するため浦幌市街設計図が描かれた。

当時の道路や橋、民有地区の測量、設計を手掛けたのは新潟県新発田市出身で、土田農場開事主任だった君貞次(生没不詳)。2008年に亡くなった歴史研究者君尹彦・元道教官大教授の祖父に当たる人で、貞次が愛用した測量道具などを展示している。

初日は帯広から団体の来場者も多かった。久門好行教育長は「見せ方に工夫の余地はあると思うが、まず見ていただきたい。先人のうかがえる話をしてい

「北海道新聞」 2010年9月2日

知得北海道

15・576・2009

●7日に新種貝化石の講演会 【浦幌】十勝管内浦幌町立博物館は7日午後7時から、町内の地層から見つかった約3千万年前の「シンカイヒバリガイ」の新種の貝の化石の研究者を招き、講演会を開く。

横浜国立大特別研究員で、英国人古生物学者ロバート・ジェンキンス氏が、今回の発見の意義について語る。入場無料で定員30人（先着順）。問い合わせは同博物館 ☎0

「北海道新聞」 2010年9月4日

ヒバリガイ新種
発掘現場を再訪

発見のジェンキンス博士

【浦幌】深海に生息する貝「シンカイヒバリガイ」の新種の化石を発見した横浜国際大学教育人間科学部のロバート・ジェンキンス博士（33）が来町し、6、7の両日、発掘現場を再訪して追加調査を行った。

化石が発見された厚内川支流の地層について説明するジェンキンス博士（左）



家井上清和さんらと現場を訪れ、昨年発見した場所よりさらに多くの化石が含まれる地層の露出地点を見つけ、調べた。久門好行教育長も同行した。

ジェンキンス博士は上越教育大（新潟県上越市）の天野和孝教授とともに昨年8月、厚内川の支流で同化石を発掘。研究の結果、新種と分かり、この仲間では世界で2番目、国内最古（約3000万年前）のものとして今年5月、天野教授が発表した。7日は貝の情報を提供した帯広市のアマチュア化石研究場所」と話した。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年9月7日

浦幌で栄えた炭鉱

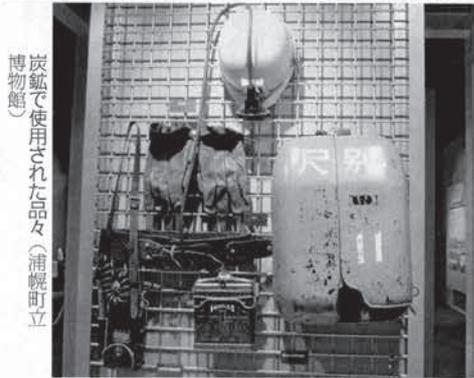
皆さんは石炭が採れる「炭鉱」のことを学んだことがありませんか？
 今から40年ほど前まで石炭は「黒いダイヤ」といわれ、人々の生活にはなくてはならないものでした。人々は石炭を使って部屋を暖かくし、料理もしました。蒸気機関車を動かし、私たちの日々の生活をより良くしてくれたのが石炭でした。

その日本の産業や生活を支えていた石炭が十勝でも採れていました。「浦幌炭鉱」です。

浦幌炭鉱は、明治24（1891）年に日本の炭鉱王といわれた古河市兵衛さんが許可を取って28年に採掘をはじめ、大正7（1918）年に開鉱しました。大正10（1921）年ごろに第一次世界大戦後の不況で一時的閉山しましたが、昭和8年（1933）に再び開鉱。石炭は最初は馬車で運ばれていたのですが、間もなく鉄道も開通し機関車で輸送されました。

浦幌炭鉱は、明治24（1891）

今は野原だけの住宅街にこんな大きな公会堂がありました



炭鉱で使用された品々（浦幌町立博物館）



浦幌炭鉱があったところ

日中戦争がはじまると昭和14年ごろには朝鮮人労働者を含めて1000人以上の労働者が浦幌炭鉱で働き、浦幌町の人口も増え炭鉱のある地区はとてにぎわっていった。しかし、昭和19年8月に政府の政策により休止、休山となり、労働者たちも他の炭鉱へ移りました。国の政策によって浦幌の人口も減り、一つの地域（炭鉱住宅街）が消えてしまうのです。

戦争が終わり昭和22年、浦幌炭鉱は再び採炭がはじまりました。昭和24年ごろには戦争前の状態に回復して住宅街（戸数730戸・人口3600人余）もにぎわい、商店、学校、病院、映画館などもありました。

それほどこぎわっていた浦幌炭鉱は、昭和29年10月に閉山してしまっただけです。それは、私たちの生活に使われるエネルギーの主体が石炭から変わってしまったからです。暖をとるストーブも石炭から石油・電気そして太陽光へと変化し、交通手段も、道路が整備され自動車でも移動できるようになりました。つまり石炭を使う人が少なくなっていたので閉山したので

○浦幌町立博物館

浦幌町字桜町16ノ1
 015・576・2009

「十勝毎日新聞」 2010年9月7日

浦幌の地層大規模

新種化石追加調査「今後も発見期待」

【浦幌】昨年8月、ト・ジェンキンスさんで、新発見が期待でき町内でシンカイヒバリ(38)が7日、発見場所「と話し。ガイの国内最古となる追加調査を行った。ジェンキンスさんは3千万年前の新種化石ジェンキンスさんは昨年、帯広市の会社員を発見した横浜国立大「浦幌の地層は国内で井上清和さん(51)の情学特別研究員のロバート例がないほど大規模報を基に、上越教育大



新種化石が見つかった地層を調査するジェンキンスさん(左)と井上清和さん(右)。中央は同行した久門教育長

(新潟)の天野和孝教授と現地を調査し、新種化石を発見した。

地層はシダや雑木が生い茂る厚内川支流沿いにあり、3千万年前の石灰岩で構成。長さ約百数十メートル、厚さ約10メートルに渡り、国内でも最大規模という。

7日の調査では露出した地層で、含まれる貝の種類などを調べた。新種以外にも複数の貝の化石が見つかり、生態系の多様さをうかがわせた。

ジェンキンスさんは「当時の状況を知る意味でも貴重」と話す。支流をたどれば別の地層が見つかる可能性もあるため、進化の過程の検証につながる新発見も期待できそう

同行した久門好行教育長は「浦幌の宝」として周知していきたい」と話していた。ジェンキンスさんは同日夜、町立博物館でも講演し、町民40人が聞き入った。(岡高史)

「北海道新聞」 2010年9月8日

「浦幌は貴重な場所」研究継続

「シンカイヒバリガイ」新種化石

【浦幌】深海に生息する貝「シンカイヒバリガイ」の新種の化石を発見した横浜国際大学特別研究員ロバート・ジェンキンス博士(38)＝地球生物学＝の講演会(町立博物館主催)が7日、町教育文化センターで開かれた。博士は「浦幌は白亜紀以降の各世代の地層がほとんど発見されている貴重な場所。今後、新たな発見もあるかもしれない」と述べ、継続して研究に訪れる意向を示した。



発見の博士が講演

博士はシンカイヒバリガイについて、地上や浅い海の生物と違い、光合成エネルギーに依存せず、海底の湧水(ゆづい)に含まれるメタンや硫化水素を分解する化学合成

細菌を、体内に共生させてエネルギーを得る「化学合成生物群集」に属することを説明。これらの細菌を細胞内に住まわせて活用する一方、その細菌を細胞内で消化し、栄

参加者に貝の化石に触れてもらいながら講演するジェンキンス博士(左)

博士は上越教育大(新潟県上越市)の天野和孝教授とともに昨年8月、厚内川の支流でこの化石を発掘。研究の結果、新種と分かり、今年5月に天野教授が発表した。現場を紹介したアマチュア化石研究者井上清和さん(51)＝帯広市住居Ⅱの名を取り、学名は「パシモティオリス・ノウエ」の名付けられた。今回は4日から単独で追加調査を行っており、昨年は調査できなかった支流で、長さ1.20メートル、厚さ約10

善源にして成長することも述べた。また、沖繩県の海底に現存するシンカイヒバリガイの映像も公開した。

浦幌の化石は約3000万年前の地層から発見。最大で約4.5メートル、北米で発見された最も古い化石(約4800万～4900万年前)より7センチと、これまで一番目に古かった長野県で発見された化石(約1500万～1100万年前、6センチ)の間を埋めるものと解説。「時間的な空白を埋めるとともに、貝が徐々に大きくなっていくことが確認できる。細菌との共生関係の進化を理解する上で、極めて重要な発見」と強調した。

「十勝毎日新聞」 2010年9月10日

のメタンを含む湧水の跡を示す石灰岩層を確認できた。国内でも最大級の貴重な場所であることが明らかになった。浦幌町の新たな宝、郷土への誇りを育てる、さらにはスタイル教育などに活用していきたいと話した。(久松健郎)



●化石発見現場はうっそうとした森の中にある●厚内川支流の現場公開の際に、見つかったシンカイヒバリガイの化石



この支流付近には、約3000万年前の石灰岩地層が厚さ約10㎝、幅100㎝以上に広がっており、「国内最大級」といわれる。同町の久門好行教育長は「町の宝」と語り、ジェンキンスさんも「当時を知るために貴重だ」と述べた。



講演するジェンキンスさん

浦幌町の厚内川支流で化石調査を行い、国内最古のシンカイヒバリガイの新種化石を発見した横浜国立大特別研究員のロバート・ジェンキンスさん(33)が7日、発見の意義について同町立博物館で講演し、町民ら約40人が聴き入った。また、化石調査を行った同町の現場を、町関係者や報道

浦幌の貴重な「太古」語る

シンカイヒバリガイ化石

昨夏発見の大学研究員

陣らに公開し、自ら案内した。ジェンキンスさんは香川県出身で元々、東海大で電波を専攻。趣味でアンモナイトの化石発掘をしており、大学院に進学して化石研究にのめり込んだ。昨年8月、上越教育大の天野和孝教授と共同で、同川支流の沢を発掘調査した。これまで国内で見つかったシンカイヒバリガイの化石では、長野県松本市で見つかった約1500万年前の化石が国内最古とされていたが、ジェンキンスさんが、同町でさらに約1500万年さかのぼる新種の化石を発見。今年4月7日にも、昨年の現場と別の沢を調べ、新たな化石を見つけた。シンカイヒバリガイは水深500〜4000mの深部に、現在も生息する二枚貝。細胞の中に取り込んだ微生物の作用で、メタンや硫化水素を栄養に変える特徴を持つ。講演会でジェンキンスさんは、日本海溝や沖縄島の深海で撮影した映像を交えながら、この貝の特徴を説明。昨年発見した化石が、米国で発見された約4900万年前の化石と、松本市の化石の間の時代だったことから、「年代のギャップを埋めた」という発見の意義を説明した。

講演に先だって行われた現場公開では、町内の幹線道路に近い厚内川から、川幅約50mの支流土流に向かった。うっそうとした森を約50分進むと、流れの中にある岩の表面に、木の葉の様な模様があり、ジェンキンスさんは「貝殻の断面」と説明。ハンマーでたたくと、中かシンカイヒバリガイなどの化石が見つかった。

「読売新聞」 2010年9月11日

新種化石の和名「ウラホロシンカイヒバリガイ」に



【浦幌】町内の厚内川支流から化石が発見されたシンカイヒバリガイの新種「バシモディオルス・イノウエイ」の写真について、発見した上越教育大(新潟県上越市)の天野和孝教授が、和名を「ウラホロシンカイヒバリガイ」と提唱していることが17日までに分かった。今後、図鑑などでこの名称が使われる見通し。

発見の図鑑などで使用へ
教授提唱
生物の学名は国際ルールにのっとって世界共通の正式名称が付けられるが、和名は一般的な名称で厳格なルールはなく、発見者が付けるのが通例という。

今回も天野教授が名付け親となり、浦幌での世界的発見にちなみ、「ウラホロシンカイヒバリガイ」とした。学名に人名が入る場合、和名にも入れられることが多いが、今回は同化石について情報提供した帯広市在住のアマチュア化石研究者井上清和さん(51)も賛同し、「ウラホロ」を入れることになった。天野教授は「学会では学名を使うことが多いが、今後、図鑑や教育現場では『ウラホロシンカイヒバリガイ』の名前も使われる」と話している。

「浦幌」の名を冠した生物の和名は、これまでは植物の「ウラホロイチゴ」が知られるだけだった。水沢一広町長は「大変ありがたいこと。貴重な町の財産として大切にしたい」と喜んでいいる。(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2010年9月18日

あす草花観察会

博物館ミニ移動講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「草花観察会。パート3」が18日、町内で開かれる。午前9時に同博物館（町

桜町、教育文化センター）前の駐車場に集合し、豊北海岸または炭山方面へ向かう。小学生以下は保護者同伴。長靴など野外活動に適した服装で。申し込み、問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。雨天中止。

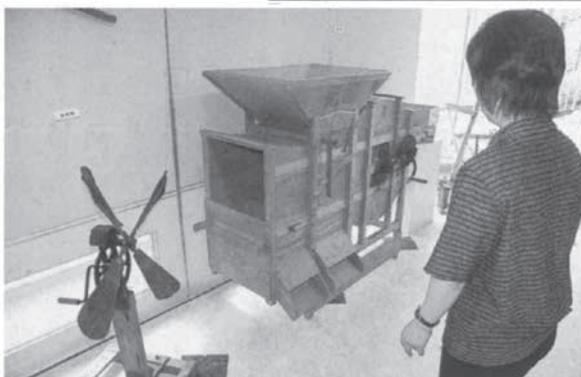
「十勝毎日新聞」 2010年9月17日

農機具の歴史紹介

浦幌町立博物館 多種多様、21点展示

【浦幌】町立博物館で21日、収蔵資料展「明治・大正・昭和の農機具展示会」が始まった。町内であつて盛んに使われた足踏み脱穀機や多種多様な播種機など21点が展示されている。会場では、人による作業効率を高めるため工夫と改良が繰り返さ

れた農機具をじかに触れられる。このうち芋播器は、農作業者が背負って前



傾して揺ると金属製タンクの両脇から手元に種芋が転がり出てくる器具。種芋を手でつかんで落とし、足で踏んで植え付けていた。木製の箱形の唐箕は、手回して風を起し、豆などに交じった穀などのごみを吹き飛ばす器具。今でも風を起こせるという。10月3日まで。入場無料。（土屋孝浩）唐箕（奥）や扇風機などが並ぶ農機具展示会

「北海道新聞」 2010年9月22日

昔懐かしい 農機具ずらり

浦幌町立
博物館 来月2日イベントも

【浦幌】町立博物館の収蔵「農機具展示会」が、同館（町資料展「明治・大正・昭和の」桜町、教育文化センター内）



展示された農機に懐かしそうに見入る来場者

で開かれている。現在では使うことが少なくなった農機をはじめ、筵（むしろ）編み機などが並び、関心を集めている。10月3日まで。

展示しているのは、風力で穀物を殻と実に分ける「唐箕（とうみ）」、たいて脱穀する道具「唐棹（からざお）」足踏み脱穀機、形状から「たこあし」と呼ばれる水稻直播（じかまき）機、背負った箱に種イモを積んで手元から取り出して落とし、足で畑に埋める「イモ播（ま）き機」など約20点。

開拓時代から機械化が進むまで、浦幌の農業の発展を支えた道具たちがほぼ動かせる状態で並び、訪れた坂井新さん（94）は「懐かしい。昔はこの農家にもあった」と話していた。

10月2日午前11時から同会場で、いも団子、かぼちゃ団子の試食会を開き、来場者が味わいながら昔の農業を語り合うイベントを予定している。資料展は入場無料。27日は休館。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年9月25日

ヒグマの足跡を観察する参加者



浦幌でヒグマの生態探る

ふんからはデントコーンの実も発見

町立博物館がミニ移動講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座（野生動物編）パート1「ヒグマの生態を探る」

がこのほど、町内で開かれた。町内外から12人が参加した。浦幌ヒグマ調査会（佐藤芳雄会長）の会員の案内で、浦幌炭鉱近郊の林道でヒグマの活動の痕跡を観察した。

町内にベースキャンプを置いて研究活動に取り組む同会には、日大、北大関係者ら研究者が集う。今回の観察会には、国後島で白い毛を持つヒグマの調査にも参加した中村秀次さん（日大大学院生物資源科学研究科）らも加わった。

一行は会員の指導の下、徒歩で道有林の林道に入り、砂利道の上や周辺を注意深く観察。豊かな森に多くの木の実があり、シカやテンなどのふんも多数落ちていた。

途中、水たまり付近で、人間の手のひらほどのクマの足跡を幾つか発見。林道上ではヒグマのふんも見つかり、中

身のほとんどがデントコーンの実などだった。

会員は「現在デントコーンが植えられている畑からは5*以上離れているが、クマは1日かからず移動できる。こ

の時期は畑に下りて、コーンやヒートを狙うクマが多い」と説明。ヒグマが背中をこすりつけた木には、ちぢれた毛が残されており、実際に触れ

〔十勝毎日新聞〕 2010年9月27日



職業体験に真剣

浦幌中2年生

【浦幌】浦幌中学校（太田

明則校長、生徒104人の2年生36人がこのほど3日間にわたり、町内の官公庁や事業所で職業体験に臨んだ。

総合学習の郷土を知る学習の一環。町役場、十勝総合振興局森林室、民間企業など28カ所で職員の仕事を手伝った。このうち町立図書館・博物館では、女子生徒2人が除籍雑誌の整理や新しい図書へのカバー張りを手伝い、慣れないながらも真剣な表情で作業を進めていた。写真。（大笹健郎）

〔十勝毎日新聞〕 2010年10月9日

10年間の思い 込めて絵手紙

「こぶし」展示会

【浦幌】絵手紙サークル「こぶし」(森ひろ子会長、8人)の10周年記念作品展が、教育文化センター(町桜町)の特別展示室で開かれている。



展示会場と「こぶし」の会員たち

はがきをはじめ、色紙や半紙、羽子板形の紙などに書かれた色鮮やかな作品約120点を展示。「水族館」と題し、多くの魚介を描き込んだステンシル作品や、和装の帯を使った掛け軸もある。

森会長は「帯の掛け軸は新しい試み。10年間の思いを込めた作品をぜひ見てほしい」と話している。18日まで。入場無料。

(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2010年10月13日

あす渡り鳥観察

博物館移動講座

【浦幌】町立博物館(町桜町、教育文化センター内)は16日、ミニ移動講座として渡り鳥観察会を開く。地元の野鳥愛好家を案内役に、豊北海岸付近の湖沼でガンやカモ類を観察する。

17日には史跡見学会パート4として、幾千世や稻穂方面の史跡を見学する。

いずれも午前9時に博物館前集合、車で現地に向かう。雨天中止、参加無料。小学生以下は保護者同伴で。問い合わせは同博物館(0155-576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2010年10月15日

貝化石、さらに充実



千歳化石会から寄贈されたアンモナイトなどの貝化石

浦幌町立博物館 アンモナイトなど

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）にこのほど、千歳市に拠点を置く千歳化石会（服部義幸会長、16人）からアンモナイトなどの貝化石が多数寄贈された。同博物館では地元で発掘された新種のウラボロシン

カイヒバリガイ（学名バシモディオルス・イノウエイ）など貝化石の展示が土器・石器と並ぶ個性となりつつあり、関係者は「今回の寄贈でさらに充実する」と感謝している。

ット1箱も贈られた。これらはいずれも中生代（恐竜が栄えていたころ）以前のもの。浦幌は中生代と新生代の境となる「K/T境界層」が露出していることで知られるが、町内ではウラボロシンカイヒバリガイを含め、発掘された貝の化石は新生代のものがほとんど。佐藤館長は「従来の展示に中生代以前のものも少なく、貝や地球の歴史を学ぶ上で大変貴重なもの」と感謝する。

千歳化石会は1987年に発足。道内各地で多数の化石発掘に携わり、化石クリーニング教室などにも熱心に取り組んでいる。これまで足寄や幕別（忠類）など道内外の博物館や学校、病院ロビーの展示用などに化石を寄付してきた。今回の寄付は博物館としては52館目となる。

町立博物館に寄付されたのは、アンモナイトの仲間とイノセラムス（二枚貝）の仲間合わせて26個の単体化石。大きなものでは直径30センチ近くある。ほかに24個入りの化石セ

千歳化石会から多数寄贈受ける

（大笹健郎）

「K/T境界層」の見学も 浦幌で「森のルート」ツアー

【浦幌】「東十勝ロングトレイル活動協議会」（会長・萩原一利帯広建設業協会会長）のモニターツアー「森のルート2010」が22、23の両日、浦幌町内で行われた。一般参加者とスタッフ合わせて約70人が、太古の地球やかつて北海道を支えた産業に思いをはせながら、紅葉に染まる山中をトレッキングした。同協議会は昨年からは、川の3つのルートで試験的なツアーを実施し、将来の事業化へ調査を進めている。「森のルート」ツアーは昨年に続き2回目。

「十勝毎日新聞」 2010年10月24日



K/T境界層の説明を聞く参加者

(大笹健郎)

一行は初日、町川流布の地域会館を出発。恐竜絶滅の原動力とされる6550万年前のいん石衝突の痕跡「K/T境界層」の露出地点（道有林内）に向けて4・6キロを歩き、同地点では町立博物館の佐藤芳雄館長から説明を聞いた。音更町から参加した平吉彦さん（69）は「なぜ日本では浦幌だけで見つかったのか興味深い」と話した。郷土料理研究家の村田ナホさんと夫の歩さんの講演も。2日目は浦幌炭鉱跡から留真温泉への山越えルートをたどった。

11月12、13日には、野鳥観察をしながら2日間で約25キロを歩く「川のルート」モニターツアーも行われる。

博物館でハーモニーズ

【陸別】陸別小と陸別中の児童、生徒計6人で活動している「陸別リコーダークラブ」は6日、十勝管内の博物館3カ所で演奏するコンサートツアー「博物館へ行こう」を行う。

リコーダークラブ演奏
6日、3市町で演奏
陸別

同クラブは昨年4月に結成し、陸別小の嶋本勇教諭が同校で指導している。今年8月、2日間で管内の道の駅7カ所をめぐる初ツアーに挑戦しており、今回は第2弾。午前10時に足寄動物化石博物館

でスタートし、午後1時半から浦幌町立博物館、同午後5時半から帯広百年記念館。演奏は1カ所当たり約30分間で無料。足寄動物化石博物館は有料エリアである展示場での演奏だが、同日午前9時半～正午まで入館無料にする。

(小林基秀)

「北海道新聞」 2010年11月2日

浦幌の鳥こんなに多彩

「とりおばさん」写真展

【浦幌】町広報誌に13年間「うらほろ野鳥図鑑」を連載している、ペンネーム「とりおばさん」の写真展が町立博物館で開かれている。連載は今月号で155回を数え、なお継続中。筆者は「写真撮影は、野鳥の宝庫と言われる浦幌町に住んでいるからこそその楽しみ」と話している。(土屋孝浩)



とりおばさんが撮影した「ケアシノスリ」(写真パネルの一部)

【浦幌】町広報誌に13年間「うらほろ野鳥図鑑」を連載している、ペンネーム「とりおばさん」の写真展が町立博物館で開かれている。連載は今月号で155回を数え、なお継続中。筆者は「写真撮影は、野鳥の宝庫と言われる浦幌町に住んでいるからこそその楽しみ」と話している。(土屋孝浩)

「北海道新聞」 2010年11月4日

広報誌担当職員への依頼

で97年11月号から、写真に、その鳥とのエピソードを軽妙につづった短文を添えて連載を始めた。展示会場には記事のコピーに加え、コウノトリ、ケアシノスリ、クマタカなどのカラーパネル約40点を並べた。筆者が「もう10年以上出合っていない」というコクマルカラス、コウハクチョウ、ヨーロッパコマドリの写真も大きく引き伸ばして展示した。これまでに紹介した野鳥の撮影地は、豊北41種、十勝太17種、福山15種、街中12種、森林公園10種などの順に多かったという。筆者は「町内には公認で約280種いるの認で、まだまだ少し頑張れそうです」と話している。入場無料。22日まで。

「とりおばさん」写した貴重な野鳥

コウノトリなど貴重な鳥の写真も並ぶ展示会場



広報誌連載の春日さん 浦幌博物館で写真展

【浦幌】「とりおばさん」の(54)＝町内在住の写真展愛称で知られ、町広報誌の連載が、町立博物館特別展示場で野鳥紹介のコーナーを担う「桜町、町教育文化センター」で始まった。

春日さんは20年前ほど前、美しい小鳥(ウソ)が飛来し、興味を持ったのをきっかけにバードウォッチングが趣味となり、さらに記録して、ゆっくり調べたいと写真撮影を始めた。1997年から町の広報誌で「うらほろ野鳥図鑑」の連載を開始。11月号までのこれまで155回、すべて違う種類の写真を掲載し、浦幌の自然の豊かさを町民に知らせている。記事の文章も好評を得ている。今回展示しているのは、広報誌の記事をパネルにした155枚と写真パネル42枚。95年に撮影、98年に広報誌に載せたコウノトリをはじめ、ヨーロッパコマドリ、コクマルガラスなど、地元ではなかなか見られない野鳥たちの姿が並んでいる。

記事では、モスを紹介する文章として2003年に載せた「ゴハンまじり。子どもたちおねだりにもあさんモスは、固まったまま動かない。いったいどうしたのだろう？」

答えはカンタン、近くでちよろちよろして私がいるからでした。など、ほのほのしたものを目を引く。

春日さんは「浦幌にもこんなに多くの種類の鳥がいるというのを、改めて感じてほしい」と話している。ほかに、野生動物の写しも展示している。入場無料、期間中無休。問い合わせは同博物館(015・576・2009)へ。(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2010年11月4日

「十勝毎日新聞」 2010年11月8日

陸別リコーダークラブ 博物館巡る 秋のツアー

【陸別】町内の小・中学生で編成する陸別リコーダーアンサンブルクラブ（指導者・嶋本勇陸別小教諭、部員6人）は6日、秋のコンサートツアー「博物館へ行こう！」を浦幌を管内3カ所の博物館で開いた。

コンサートツアーで熱演する陸別リコーダーアンサンブルクラブのメンバー（浦幌町立博物館）



浦幌ではロビーを会場に、パッハの「G線上のアリア」、ジュラシックパークの「主題曲には大喜びしていた。

れ、今年度は中学1年生1人と小学5年生5人で構成。8月には管内の道の駅7カ所で

「道の駅コンサートツアー」を行い、好評を得た。今回は足寄動物化石博物館と浦幌町立博物館、帯広百年記念館でツアーを展開。このうち浦幌ではロビーを会場に、パッハの「G線上のアリア」、ジュラシックパークの「主題曲には大喜びしていた。

また、地元の「お話しびあの会」（西田祐子代表）の2人がゲスト出演。キーボード演奏や歌での手遊びにリコーダーの音を合わせ、来場者と一緒に体を動かした。同クラブの三品淑部長（陸別中1年）は「会場の音の響きが良く、気持ちよかったです。『お話し』との共演も楽しかった」と笑顔で話していた。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年11月9日

【浦幌】浦幌中学校（太田朋則校長、生徒104人）の3年生が取り組む総合学習「郷土振興」が今年度も始まり、8日には地域の魅力を実地体験するバスツアーを行った。今年度は「地域開発」をテーマに、温泉や炭鉱跡地などの観光資源を生かした地域活性化の企画を立案、12月に町民を集めたプレゼンテーションを行う。

浦幌中の総合学習「郷土振興」



浦幌炭鉱跡で硫黄のにおいがする水を観察する生徒

来月発表 バスツアーで魅力体験

観光資源生かし活性化提案

同総合学習は2007年度に開始。子供たちが郷土の魅力を理解し、まちづくりにかわるころはほろスタイル教育の一環で、官民連携による同教育推進委員会（正江正隆会長）が全面的に支援している。これまでに町内7か所のための「起業」を学習、催事のふわふわ遊具の地所、有や、マスコットキャラクター「うらほ・ほろま」の道の駅「浦弁」などを町民に提示し、実現させた。

今年度は総合学習に充たれる時間が少なくなったこともあり、観光に主眼を置いた「地域開発」をテーマに掲げた。3年生（31人）は6月の修学旅行で、函館方面で観光地の現状を学んだ。この日のバスツアーには生徒と教職員ほか、同協議会から近江会長ら2人、案内役の佐藤芳雄町立博物館館長の町教委の職員3人も同行した。午前8時半に同校を出発し、工事中の留真温泉を経て浦幌炭鉱跡へ。温泉から一山越えた場所、使われなくなった炭鉱の通気口から硫黄を含むとみられる水が流れ出ている様子や、釧路市音別方面（ずいどう）跡地を見学した。海岸部に移動し、昼食では地元の魚介類を使った「浦弁」を味わい、昆布石展望台やパラグライダー発着場、トーチカ跡なども訪れた。学級委員長の上藤美結さんは「発見が多いツアーだった。炭鉱の線路跡でトロッコを走らせる夢があり、参考にしたい」と話していた。（大笹健郎）

バイオリンの名器で演奏披露

20日にコンサート

【浦幌】アップビートとかち音楽祭オータムコンサート「秋のヴァイオリン演奏会」(町教委、アップビートとかちプロジェクト)が、20日午後2時から町コスミックホールで開かれる。

モーツァルトの生誕地ザルツブルク(オーストリア)から世界的バイオリン奏者のルツ・レスコウィッツさんが招かれ、名器ストラディヴァリウスでの演奏を披露する。出演はほかにエレナ・イサエンコヴァさん(バイオリン)、伊藤夢里子さん(ピアノ)。

入場無料だが、整理券が必要。町内の4公民館と町立図書館で配布中。問い合わせは町教委社会教育係(015・576・2127)へ。

【十勝毎日新聞】 2010年11月17日

一流のバイオリン堪能

浦幌 アップビートとかち音楽祭



【浦幌】アップビートとかち音楽祭オータムコンサート「秋のバイオリン演奏会」(町教委、アップビートとかちプロジェクト)が20日、町コスミックホールで開かれ、町内外の150人が一流の演奏に耳を傾けた。

ザルツブルク(オーストリア)から招かれた世界的バイオリン奏者のルツ・レスコウィッツさんと、バイオリン、ピアノ奏者のエレナ・イサエンコバさん、帯広在住のピアニスト伊藤夢里子さんが共演。レスコウィッツさんが弾くバイオリン「ストラディヴァリウス」の説明などを交えながら、モーツァルトのバイオリン

ソナタ・ハ長調など4曲を演奏。さらに2度のアンコールにも応じて演奏した。

コンサートの少ない浦幌では貴重な機会とあって、聴衆は一流の演奏に大喜び。古川絢音さん(浦幌中央小6年)は「浦幌でのクラシックのコンサートには初めて来た。とても勉強になった」と笑顔。レスコウィッツさんは「たぐさんの人が音楽を聴きにきてくれてよかった」と話していた。(大笹健郎)

【十勝毎日新聞】 2010年11月22日

博物館で人気のアオサキコロニーのジオラマ。27日は暗がりの中で楽しむ



浦幌で27日「ナイト・ミュージアム」

懐中電灯手に博物館探検を

【浦幌】夜の博物館を探検しよう。町立博物館(町枝町、佐藤芳雄館長)は27日の午後8時〜同10時、初の試みとして「ナイト・ミュージアム」を開く。暗い館内を懐中電灯を持って歩き、展示物を見る。「昼間とは違う展示物の表情を楽しんで」と来館を呼び掛けている。

同博物館は、十勝川河口域をはじめとする豊かな自然の中に生息する野生生物を多数展示。アオサギのコロニーのジオラマやオオワシなどの剥製(はくせい)は、間近で見られるため人気が高い。また、

た、十勝太若目遺跡の土坑墓を、発掘した時の状況のまま再現した立体展示も人気。通常は午後5時で閉館する。

当日は館内の照明を落とし、参加者各自が懐中電灯の明かりを頼りに、ジオラマや剥製を見学する。佐藤館長らが案内役を務める。入場料、参加費とも無料。時間内に訪れるとよい。小学生以下は保護者同伴。懐中電灯は持参(博物館にも用意あり)。問い合わせは同博物館(015・579・2009)へ。

【十勝毎日新聞】 2010年11月24日

暗がりの博物館「探検」

浦幌ナイトミュージアムに30人

【浦幌】町立博物館（町桜町、佐藤芳雄館長）の特別企画「ナイト・ミュージアム」が27日夜、同館で開かれ、管



暗がりの中、熱心に展示物を見る子供ら

内外の親子連れら約30人が暗がりの中、博物館を「探検」した。参加者は懐中電灯を頼り

に、照明が落とされた展示室内を進み、アオサギのコロニーのジオラマ、オオワシなどの剥製がライトで浮かび上がると、歓声を上げた。地下室に設置された十勝太若月遺跡の土坑墓を、床のガラス越しに恐る恐るのぞき込む姿も。ウラボロシンカイヒバリガイなどの化石には子供たちが食い入るように見つめ、太古の時代に思いをはせていた。帯広から家族4人で訪れた清水百音（もね）さん（豊成小3年）は「遺跡や土器、絶滅した貝を暗い中で見ると、本当にその時代にいるようだった」と笑顔を見せた。同館は今後も開く予定。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年11月30日

昭和伝える 新聞を展示

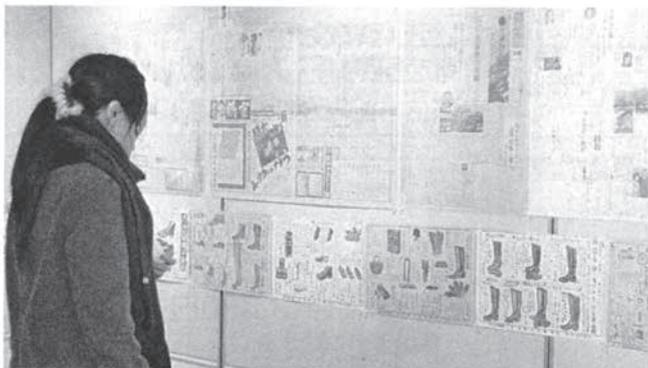
浦幌町博物館

【浦幌】町立博物館の特別展「新聞が語る昭和史」が、同館（桜町、教育文化センターらぼろ21ロビー）特別展示ホールで開かれている。太平洋戦争が始まった12月

8日に合わせた特別展。町民から寄贈された戦前の小樽新聞、十勝新聞、東京朝日新聞や、復刊後の十勝毎日新聞など、複写も含めて計72点が展示されている。

開戦や終戦を伝える記事の他、1943年のアツツ島玉砕の戦死者を伝える記事では、多くの軍人・軍属の遺影と全員

戦前からの新聞が並び特別展



の名前を載せている。また、町内の農家が保管していた、戦前の「加藤ゴム営業所」（名古屋市）が発行した通販用の生活物資のチラシも32点が並んでいる。26日まで。午前10時～午後5時。入場無料。問い合わせは同館（015・576・2472）へ。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年12月7日

バイオリン

「コンサート、楽しかったよ」。世界的なバイオリン奏者ルツ・レスコヴィッツさんと記念撮影し、笑顔（浦幌・コスミックホールで）



「十勝毎日新聞」 2010年12月8日

昭和50年代の浦幌あすと21日上映

【浦幌】町立博物館主催の「映像で見る昭和50年代の浦幌 懐かしき8ミリ上映会」が14、21の両日、町中央公民館で開かれる。

吉野小型映画クラブが撮影した音声入りの8ミリ映画を観光編、文化財編、産業編の3部構成で上映する。両日とも午後7時から。入場無料。問い合わせ、参加申し込みは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」
2010年12月13日

あすゴスペル コンサート

【浦幌】ゴスペルグループ「PATOLIS（パトリス）」のコンサートが、18日午後1時半から町立博物館・図書館ロビー（町桜町、教育文化センターラポロ21の1階）で開かれる。

パトリスは、釧路市を拠点に活動するクリスチャン夫婦によるギターとツインボーカルのグループ。各地の道の駅や福祉施設でもライブを行っている。入場無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2010年12月17日

ゴスペルの2組 美しい歌声披露

【浦幌】町立博物館・図書館ロビーコンサート「ゴスペルライブ in 浦幌」が18日、



両施設のある町教育文化センターらぼろ21で開かれた。

PATORIS（釧路市）、Anointed（帯広市）が出演。いずれも夫婦で活動する「Jーゴスペル」のグループ。

PATORISはクリスマス曲「まきびとひつじを」や日本、韓国で生まれた曲を4曲、Anointedは、クリスマスメドレーなどを歌い、最後に4人で「アメイジング・ラブ」など2曲を披露した。写真。会場には町民約30人が集まり美しい歌声に耳を傾けた。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2010年12月20日

町立博物館で15日
レコードコンサート
【浦幌】町立博物館（町桜
町、教育文化センターらぼろ
21の1階）は15日午後1時か

ら、同館ロビーで「レコード
コンサート」を開く。
同館が新たに購入したプレ
ーヤーで、家庭に眠るレコー
ドの音を楽しんでおと
という企画。参加無料。レコー
6・2009）へ。

「十勝毎日新聞」
2011年1月12日

歩くスキーで 厳寒の自然体感 しませんか？

来月5日豊北海岸
【浦幌】町立博物館主催の
「厳寒体験教室」が2月5日

午前9時から豊北海岸で開か
れる。十勝川河口付近の雪原
や凍結した小川・湖沼の上を
歩くスキーで進み、野鳥など
の自然を観察する人気の企
画。参加者を募集している。
豊北海岸は、砂浜と湿原や

「十勝毎日新聞」 2011年1月16日

河川が入り乱れ、一年を通じ
多彩な生物が見られる。春か
ら秋は徒歩で入れない場所も
多い。ただ、厳寒期はスキー
で移動でき、いっとも違った
角度から観察が可能。例年、
オオウシ、オジロワシをほじ
めとする野鳥や動物たちの
姿、雪上の足跡などを観察で
き、アザラシも見られる。

当日は午前9時に町立博物
館（町桜町、教育文化センタ
ーらぼろ21）前に集合。各
自、車で豊北海岸のトーチカ
跡付近に移動、説明を聞いた
後十勝川河口へ向けて出発
し、約2時間で往復する。終
了後は豚汁などが振る舞われ
る。歩くスキー初心者には講
習もある。

定員は20人（先着順）。参
加料500円（傷害保険料な
ど）。持ち物はスキーまたは
スノーシューのほか、弁当、
飲料水、発汗時の着替え、



昨年の教室で野鳥観察を
楽しみながら歩くスキー
で目的地を目指す参加者

箸、食器（雪中豚汁用など）
歩くスキーはセットで無料レ
ンタル可。数が限られている
ため、希望者は早めに連絡
を。
参加申し込みは、2月3日
までに同館（015・576
・2009）へ。（大笹健郎）

70人参加で浦幌自然体験教室



豊北海岸の砂丘と湿原をスキーで進む参加者

【浦幌】博物館講座の移動した。昨年続き、東十勝ロン
自然（厳寒）体験教室「豊北
グトレイル活動協議会（会長
雪原と自然）町教委主催、秋原一利市建設業協会
町立博物館、中央公民館共
長）の「海のルート 雪原ス
」が5日、浦幌と豊原にま
キと野鳥観察ツアー」の一
たがる豊北海岸周辺で開かれ
行も合流し、約70人が一帯の

風景や自然を楽しんだ。
同海岸のトーチカ跡に、体
験教室と同ツアーの一行が集
合。歩くスキーで凍結した沼
や湿原を巡るグループと、雪
のない砂浜を歩くグループに
分かれ、十勝川河口を目指し
た。浦幌野鳥倶楽部の武藤満
雄代表や同博物館の佐藤芳雄
館長がガイド役を務めた。
この日はまずまずの天候で
自然観察日和となり、参加者
は雪原を滑ったり、海岸の風
景を楽しんだ。道中ではオオ
ワシやオジロワシ、ゴマフア
ザラシも観察できた。
出発地点に戻った後は、ポ
ランテアの住民が用意した
豚汁やおにぎり、白花生パン
などが振る舞われ、参加者を
喜ばせた。市広市の進藤柚季
さん（大空小5年）は「海岸
を歩くことは少ないので面白
かった。アザラシがかわいか
った」と笑顔。鹿追町の栗田
洋子さん（59）も「海沿いを
スキーで歩くのは初めて。楽
しかった」と話した。
ロングトレイルの一行はこ
の後、豊原町の天津漁港など
でも観察に臨んだ。
（大笹健郎）

砂浜や湿原の自然楽しむ

「十勝毎日新聞」 2011年2月8日

「十勝毎日新聞」 2011年2月24日

七段飾りや掛け軸も

「らぼろ21で「ひな人形展」 浦 幌

【浦幌】町立博物館主催の「ひな人形展」が、同博物館のある教育文化センターらぼろ21（町桜町1階ロビー）で開かれている。3月3日まで。

昭和初期の御殿雛（ひな）から最近の七段飾りまでを展示。材質や表情などの変遷が分かる。昨年3月に閉園した吉野幼稚園の七段飾りも展示し、卒園生にとっては懐かしい再会の場になっている。この他、掛け軸のタイプもある。

訪れた主婦らは、自分が小さかった頃のひなまつりの思い出などを語り合いながら入



興味深そうにひな人形を眺める来場者

には、展示会場でひな人形と一緒に写真を撮影し、その写真をもとに、入場無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。（大笹健郎）

ひな人形展会場で琴

浦幌小学生20人体験教室

【浦幌】町教育文化センター内の「ひな人形展」（町立博物館主催、3日まで）の会場で、琴の体験教室が開かれ、町内の小学生20人が日本の伝統文化を学んだ。



ひな人形展の会場で琴の練習に励む児童

町教委の子供の居場所づくり事業「オーポロ広場」の一環。児童は地元の「琴代（ことよ）会」の田中克枝代表ら3人の指導で、「かえるのうた」などを練習。最後は同会メンバーの演奏に合わせて「ひなまつり」を歌い、展示会場を盛り上げた。多くの児童は琴に触れるのも初めてだったが、積極的に練習に取り組んだ。鳴海琴さん（浦幌小1年）は「自分と楽器の名前が一緒だと大喜びし、「うまく弾けたよ」と笑顔で話していた。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年3月4日

すさまじい被害写真57枚 十勝沖地震の回顧展 浦幌



【浦幌】1952年3月4日に発生し、大きな被害をもたらした十勝沖地震の回顧展が町立博物館（桜町）特別展示ホールで開かれている。同館の収蔵資料展。地震直後の町内を捉えた写真パネルなどが並び、地震への備えを改めて訴えている。

同地震は襟裳岬東方約50キロで発生、マグニチュードは8・2。浦幌村（当時）では震度6を記録し、死者1人、重軽傷者139人、火災全焼4戸、被害総額は当時で13億円に上った。

会場には崩れた校舎や落ちた橋、ゆがんだ線路、横転した列車など、すさまじい被害の様子を伝える写真パネル57枚と、1年後に発行された町

広報誌の地震1周年特集号などを展示。昨年、町が作製した防災マップも並べた。同館は「写真を見て地震の恐ろしさを再確認し、対策を考えてほしい」としている。27日まで。午前10時～午後5時。21日は休館。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年3月12日

高級プレーヤーで
レコードを楽しむ

26日コンサート

【浦幌】町立博物館・図書館ロビーコンサート「ミニ・ミニ・レコードコンサート」が26日午後1時から、両施設のある教育文化センターらほろ21（町桜町）の1階ロビーで開かれる。所蔵レコードや家庭で眠るレコードを、町民寄贈の高級プレーヤーで聴く。入場無料。かけてほしいレコードがあれば持参する。問い合わせは博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2011年3月21日

浦幌の津波被害 まざまざと



浦幌の津波被害の写真に驚く子供たち

町博物館で写真40枚展示



【浦幌】東日本大震災による町内の津波被害を伝える写真展（町立博物館主催、十勝毎日新聞社共催）が29日、同館特別展示ホール（町桜町、教育文化センターらほる21）で始まった。海岸部以外の町民にも、地元被害の詳細を知り、震災を自分たちの問題として捉えてもらうための試み。厚内漁港周辺を中心に、本紙カメラマンや町民が撮影した被災現場の写真約40枚を展示している。

市街地の町民に驚き

同震災では町内の厚内漁港で4尺の津波を観測。人的被害はなかったが、16隻の漁船や漁港の施設、さらには住宅地にも津波が侵入し、7戸が床下浸水の被害を受けた。

浦幌は南北に長く、厚内漁港から北部の畑作地帯の上浦幌地区までは車で約50分、役場のある中心市街地までは約20分かかり、「一般住民の交流は少ない。東日本の広域で未曾有の大被害となっただけに自主的な支援活動も始まっているが、子供たちの間では「自分の町の被害をよく知らない」との声も多かった。写真展は、震災を自分たちの生活にも直接関わるものとして理解し、被災地支援と今後の防災について改めて考えてもらうと企画。第1波の到達前の海の様子から、水没する漁港、波に翻弄（ほんろう）される船、避難所の様子などが写し出されている。

中心市街地に住む主婦の野口博子さん（61）は「厚内は年に一度ほど遊びに行く楽しい場所。こんなに被害が出ているとは…」と驚きの表情。浦幌小、上浦幌中央小の教職員は「内陸部の子供たちは自分の目で被害を見ておらず、貴重な機会」とし、福原仁子浦幌消費者協会会長は「全国の被害と同時に、浦幌の被害も次世代に伝えなければと感じた」と話した。4月15日まで。入場無料。（大笹健郎）

津波の第1波が押し寄せ、波が引いた際には着底、さらに夜間の津波で2隻の漁船が突堤に乗り上げた（厚内漁港、組み写真）

「十勝毎日新聞」 2011年3月29日

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

(平成11年9月20日条例第20号)

(目的)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

(名称及び位置)

第3条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 浦幌町教育文化センター

位置 浦幌町字桜町16番地の1

(教育機関)

第4条 センター内に次の教育機関を置く。

(1) 浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）

(2) 浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

(図書館奉仕)

第5条 図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

(1) 図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。

(2) 図書館資料の目録を整備すること。

(3) 図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。

(4) 読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。

(5) 時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。

(6) 学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(図書館の職員)

第6条 図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

(図書館協議会)

第7条 図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

2 図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし教育委員会が委嘱する。

4 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(博物館の事業)

第8条 博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
- (2) 博物館資料を博物館外で展示すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
- (5) 博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (7) 浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
- (8) 学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第9条 博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条 博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

- 2 博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。
- 3 博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第7条第3項から第5項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条 委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条 館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
- (4) その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条 利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

(平成11年12月1日教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第4条第2号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

(博物館協議会)

第2条 浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第3号）第2条の規定を準用する。

(開館時間)

第3条 常設展示室の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

(休館日)

第4条 常設展示室の休館日は次のとおりとする。

- (1) 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する休日
- (3) 年末年始
- (4) その他館長が必要と認めた日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

(常設展示室利用者の遵守事項)

第5条 利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。
- (2) 許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。
- (3) 音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。
- (4) 飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

(博物館資料の寄贈等)

第6条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第1号）を提出し、承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の提出があったときは遅滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第2号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第3号）を交付するものとする。

4 寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第7条 寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第8条 博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第9条 館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認められた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条 前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、特に必要と認めるときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

3 館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条 博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

2 貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。
- (2) 当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。
- (3) 承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。
- (4) 貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条 博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第4号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

2 前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第5号）を交付するものとする。

3 前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

4 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条 博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第6号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第7号）を交付するものとする。

(委任)

第14条 この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この教育委員会規則は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第1号）は、廃止する。
- 3 旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

別記様式第1号

博物館資料寄贈（寄託）申込書

年 月 日

浦幌町立博物館長 様

住所 _____

氏名 _____ 印

次のように、博物館資料を寄贈（寄託）したいので申し込みます。

記

1 寄贈、寄託資料

資 料 名	数量	摘 要

2 寄託の場合、寄託期間
年 月 日 から 年 月 日

別記様式第2号

博 物 館 資 料 受 領 証

年 月 日

(申 込 者) 様

浦幌町立博物館長 印

寄贈の申込みのあった次の資料を受領します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、
学術資料として有効に活用させていただきます。

記

1 寄贈資料

資 料 名	数量	摘 要

別記様式第3号

博 物 館 資 料 受 託 証

年 月 日

(申 込 者) 様

浦幌町立博物館長 印

寄託の申込みのあった次の資料を受託します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、
学術資料として有効に活用させていただきます。

記

1 受託資料

資 料 名	数量	摘 要

2 受託期間
年 月 日 から 年 月 日

※寄託資料の返還は、この受託証と引換えに行います。

別記様式第4号

特 別 利 用 申 請 書

年 月 日

浦幌町立博物館長 様

申請者 住所 _____

氏名 _____ 印

次のように浦幌町立博物館資料を特別利用したいので、申請します。

記

利用目的			
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)		
利用方法	閲覧・複写・複製・撮影・複製・その他 ()		
利 用 資 料 名	点数	備 考	

別記様式第5号

特 別 利 用 承 認 書		
年 月 日		
(申請者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ~ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点 数	備 考
注意 1 利用時間は、午前10時から午後5時までとする。 2 利用に当たっては、係員の指示に従うこと。 3 前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。		

別記様式第6号

受付番号		第 号
模 写 品 等 使 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 (法人又は団体にあつては主たる事務所所在地)		
氏名 (法人又は団体にあつては名称及び代表者氏名) 印		
電話		
次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたので、申請します。		
記		
使用目的		
模写等区分	模写・模造・撮影・複写	
製作等区分	刊行・複製・研究発表等	
作品名		
製作数		
予定価格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模写等資料名		
注) 刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。		

別記様式第7号

承認番号		第 号
模 写 品 等 使 用 承 認 書		
年 月 日		
(申請者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。		
記		
使用目的		
模写等区分	模写・模造・撮影・複写	
製作等区分	刊行・複製・研究発表等	
作品名		
製作数		
予定価格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模写等資料名		
注) 1 上記使用目的以外に使用しないこと。 2 使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。		

○浦幌町立博物館処務規程

(平成11年12月1日教育委員会規程第2号)

改正 平成13年6月29日教委訓令第5号
平成15年6月30日教委訓令第3号

(目的)

第1条 この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の職)

第2条 博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。

(任免)

第3条 前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。

(服務)

第4条 博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。

(職務の分掌)

第5条 館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条第4項に規定する職務を行う。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

5 主査は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

6 主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

7 学芸員補は、法第4条第6項に規定する職務を行う。

(係の設置)

第6条 博物館に博物館係を置く。

(事務の分掌)

第7条 博物館係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 人事、経理、文書その他庶務に関すること。
- (3) 浦幌町立博物館協議会に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 物品の出納及び管理に関すること。
- (6) 施設設備の管理に関すること。
- (7) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (8) 博物館資料の説明及び助言等に関すること。
- (9) 博物館資料の調査研究に関すること。

- (10) 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 博物館事業の広報に関すること。
- (12) 博物館事業の企画運営に関すること。
- (13) その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第8条 削除

第9条 削除

(専決)

第10条 館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。

- (1) 施設設備の使用及び管守に関すること。
- (2) 専用公印の管守に関すること。
- (3) 関係団体の育成及び指導等に関すること。
- (4) 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
- (5) 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条 前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

(事業計画及び事業実績報告等)

第12条 館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条 館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

(帳簿)

第14条 博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。

- (1) 博物館日誌（別記様式第1号）
- (2) 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
- (3) 図書台帳
- (4) 旅行命令簿
- (5) 経理簿
- (6) 会議日誌
- (7) 出勤簿
- (8) 公文書綴り
- (9) 沿革史
- (10) 博物館資料寄贈申込台帳
- (11) 博物館資料寄託申込台帳
- (12) 博物館資料受入台帳（別記様式第2号）
- (13) その他館長が必要と認めた簿冊

(合議)

第15条 館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

(公印)

第16条 博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 浦幌町立博物館協議会長の印
 - (2) 浦幌町立博物館の印
 - (3) 浦幌町立博物館長の印
- 2 前項の公印は、館長が保管する。
 - 3 公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。
 - 4 公印の刻字面の様式は、別記様式第3号のとおりとする。

(文書の記号)

第16条の2 文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

- 2 前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物館

(博物館資料の受入れ)

第17条 博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条 前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第4号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

(準用規定)

第19条 この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第2号）を準用する。

(読替え規定)

第20条 浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この教育委員会規程は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附 則（平成13年6月29日教委訓令第5号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年6月30日教委訓令第3号）

この教育委員会規程は、平成15年7月1日から施行する。

別表（第16条第3項関係）

種 別	規 格	定数	定 位 置	個数	摘 要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

別記様式第1号

決 裁	館長	回	議	係	合	議
年 月 日 () 天 候						
寄 贈 等	博物館資料の寄贈	寄贈者	住所	品名数量等		
	博物館資料の寄託	寄託者	住所	品名数量等		
	博物館資料の返還	受領者	住所	品名数量等		
事 業 等	事業名		～	特記事項		
	事業名		～	特記事項		
来 館 者	所属氏名		所属氏名			
	所属氏名		所属氏名			
団 体 入 館 者	団体名	人数	特記事項			
	団体名	人数	特記事項			
	団体名	人数	特記事項			
職 員 動 静	氏名	旅行先	目的			
備 考						

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第2号

要 摘	収蔵番号								
	分類番号								
寄贈者等住所・氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所
	住所	氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所
受入方法	寄贈	探集	発掘	寄託	製作	購入	複製	その他	
	寄贈	探集	発掘	寄託	製作	購入	複製	その他	
受入年月日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
品名									
受入番号									

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第3号

- 1 浦幌町立博物館協議会長の印



- 2 浦幌町立博物館の印



- 3 浦幌町立博物館長の印



別記様式第4号

浦幌町立博物館	
受入番号	—
収蔵番号	—
分類番号	
受入年月日	年 月 日
資料名	
寄贈者等名	
寄贈者等住所	
受入方法	寄贈・探集・発掘・寄託・製作・購入・複製・その他
摘要	

注) 1 年号は西暦で記載すること。
2 「受入方法」は、適当なものを○で囲むこと。

XIII. 平成22年度予算

10款 教育費 5項 社会教育費 3目 博物館費

(単位:千円)

当初 予算額	補正額	計	節		説 明	
			区 分	金 額		
1,251	0	1,251	1 報 酬	25	委員報酬	25
			8 報償費	64	報償金	64
			9 旅 費	74	費用弁償	1
					普通旅費	73
			11 需用費	1,728	消耗品費	373
					印刷製本費	525
					光熱水費	18
			修繕料	50		
		12 役務費	178	通信運搬費	84	
				手数料	10	
		18 備品購入費	48	備品購入費	0	
		19 負担金、補 助及び交付 金	28	北海道博物館協会負担金	15	
				帯広百年記念館運営連絡協議会負担金	3	
				道東3管内博物館施設等連絡協議会負担金	5	
				研修会参加負担金	5	

浦幌町立博物館年報 第12号

発行日 2011年10月31日

編集 佐藤芳雄

発行所 浦幌町立博物館
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地1
電話 015-576-2009 FAX. 015-576-2452

印刷所 大同出版紙業株式会社
〒080-0017 北海道帯広市西7条南6丁目2番地